

せん
千

かん
環

きょう
協



創立20周年記念特集

千葉県環境計量協会

Chiba Prefectural
Environmental Measurement Association

目 次

1. 会長挨拶 千環協創立20周年にあたり	会 長 中 村 豊	1
2. 祝 辞	千葉県知事 沼 田 武	2
祝 辞	参議院議員 岩 瀬 良 三	3
祝 辞	千葉市環境部長 齊 藤 眞	4
祝 辞	(社)日本環境測定分析協会専務理事 世 良 昇	5
3. 創立20周年記念式典			
	式典報告	6
	表彰者氏名	7
	式典風景	8
4. 記念講演			
	21世紀の環境と文明		
	環境・文明研究所所長 加 藤 三 郎	12
5. 20周年によせて			
	第4代会長 後 藤 一 郎	16
	第5代会長 茂 木 義 資	17
	第6代会長 加 藤 元 彦	18
6. 計量法関係動向		19
7. 千葉県の主なできごとと環境関係の動向		21
8. 事業活動実績(昭和62年~平成8年)		24
9. 過去の技術事例発表テーマ・一覧		33
10. 研修見学会・技術講演会実績		34
11. 新春講演会実績		37
12. 経営問題懇談会実績		38
13. 千葉県環協計量協会			
	設立及び構成	39
	組織及び事業活動	40
	規 約	41
14. 理事及び歴代理事		44
15. 会員名簿		45
16. 広 告		51



千環協創立20周年にあたり

会 長
中 村 豊

千環協創立20周年記念式典にあたり、主催者を代表してご挨拶申し上げます。

本日は、ご多用の中、沼田知事、岩瀬参議院議員はじめ、日頃ご指導いただいておりますたくさんのご来賓の方々のご臨席をいただきまして、誠にありがとうございます。

千環協を創立し、育てていただきました、先輩理事の方々、そして、多数の会員の皆様のご参加をいただきまして、盛大に、千環協創立20周年式典が挙行できました。厚く御礼申し上げます。

千環協は、千葉県内の環境計量者の団体として、昭和51年6月に7事業所をもって、千葉県環境測定分析協議会が発足し、関係各位のご指導、ご協力を賜り、発展してまいりました。昭和61年10月に沼田知事はじめ多数のご来賓のご参加をいただき、創立10周年記念式典が挙行されました。その後、昭和62年に現在の千葉県環境計量協会と名称を改定し、現在59社の会員構成となりました。この機会に、関係ご当局の長年に亘るご指導に対し、改めて御礼申し上げますとともに、業界発展のいしずえを築かれ、発展の原動力としてご活躍をいただきました先達に、心より敬意を表する次第でございます。

千環協は、創立以来、“環境計量に関する技術の向上と、会員相互の親和と強調に務め、かつ、関係機関との連携を密にし、環境計量証明事業の正しい発展を図る。”と目的を掲げております。全ての会員は5委員会のいずれかと、5ワーキンググループのいずれかに属し、活発に活動しております。

今日環境問題は、地球環境問題、持続可能な開発といった概念が不可欠となりました。我が国では、相次いで環境基本法等、環境保全法令が整備されつつあります。千葉県では、“ちば新時代5か年計画”が発表され、沼田知事を筆頭に環境先進県としての活動に、敬意を表するとともに、私たちが積極的にご協力を申し上げたく存じる次第であります。

我々は、今後新たな社会的要請を努力目標として、環境計量対象物質の増大、分析精度の高度化、精度管理の適正化、更には、国際的試験所認定制度にも対応していかなければなりません。

“環境計量証明事業の正しい発展を図る。”を確保するために、会員相互のより一層の研鑽が必要であります。今後とも関係ご当局ご指導の下、着実なる活動を展開して参りたく存じます。

おわりに、千環協の益々の発展を祈念し、ご挨拶といたします。



祝 辞

千葉県知事
沼 田 武

本日、千葉県環境計量協会が創立20周年を迎え、このように盛大な式典が執り行われますことを心からお喜び申し上げます。

これもひとえに、会長はじめ理事、会員の皆様の日頃の熱心な活動のたまものと深く敬意を表します。

また、協会の皆様には、本県の環境行政につきまして、日頃から多大な御支援・御協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、本県の環境問題は、従来の産業型公害につきましては、関係者の御尽力や御協力により、その改善が図られてきたところですが、近年は、自動車の排出ガス、都市河川の水質汚濁、廃棄物の処理などといった、都市・生活型の環境問題への対応が大きな課題となっています。

一方、国際的には、地球の温暖化、オゾン層の破壊や酸性雨など地球規模での新たな課題が生じております。

このような中で、本県におきましては、平成4年度を「環境新時代」スタートの年として、「千葉県環境憲章」を制定したほか、平成5年には「千葉県地球環境保全行動計画」を、また、平成7年には、従来の「公害防止条例」に代わる「環境基本条例」と「環境保全条例」を制定するなど、時代の要請に適切に対応しながら施策展開を図ってまいりました。

さらに、県では、21世紀に向けての新しい5か年計画、「ちば新時代5か年計画」を本年度からスタートさせました。

そこでは「ひと」を中心とした新たな社会システムの創造を基本理念に掲げ、「環境」を、この理念実現の為に4つの視点のひとつとして、「人と自然が共生する環境づくり」を目指して、各種の課題に総合的に取り組むこととしております。

また、本年8月には、本県の環境施策に関するマスタープランとなる「千葉県環境基本計画」を策定したところであり、今後は、この計画に基づき、各種の環境施策を総合的、体系的に展開することにより「環境先進県ちば」にふさわしい県づくりに努めてまいりたい所存です。

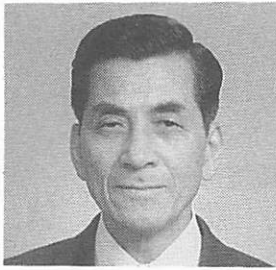
環境問題は、国際化の進展、産業の一層の高度化、生活様式の多様化等に伴い、今後、一層、複雑多様化することが予想されております。

県といたしましても、国、市町村そして事業者、県民の皆様との連携を図りながら、いろいろな角度から総合的な対策を推進してまいりたいと考えておりますが、行政による政策や事業の実施、あるいは規制、指導等のもとより、今後は、県民の皆様一人一人がそれぞれの立場から環境を考え、解決に努めていくことが非常に大切になってきております。

環境の保全に関して化学物質の影響が着目されている今日、大気、水、土壌などから正確に物質を抽出し、分析することの重要性はますます高まっております。

こうしたことから、日頃から計量・分析技術の向上・習熟、環境計量証明事業の進歩・発展等に取り組まれている貴協会の事業の意義は極めて大きなものがあり、行政サイドといたしましても大きな期待を寄せているところでありますので、今後とも、環境行政への御支援・御協力をお願い申し上げます。

最後に、貴協会の今後ますますの御発展と御列席の皆様の御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞

参議院議員

岩 瀬 良 三

この度は、貴協会が創立20周年を迎えられること心よりお喜び申し上げます。

本年より、千環協顧問に就任させていただきましてから、はやいもので1年が経とうとしております。

環境問題は、今や我が県、我が国のみならず、人類共通の課題となっております。

特に、高度成長の過程で深刻化してきた大気の汚染・水質の汚濁・騒音・悪臭等産業公害による環境の悪化は、その後の努力により、改善の跡が見られるものの、なお深刻なものがあり、日々、新たな視点から、総合的な対策を必要とする状況にあるといえます。

このような中、環境計量に関する技術の向上と、適正な環境計量の実施を確保することの重要性がより一層深まっていくのは時代の趨勢かと思われまます。

環境計量は、将来の展望の上に立った環境整備に重要な役割を果たしていることについては言うまでもありませんが、身近な緑や水辺など、うるおいと安らぎのある人間性豊かな環境を創り出していくなど、総合的な環境整備を推進していく上でも必要不可欠な存在となっております。

環境の保全是、現代に生きる私たちが、健康で快適な生活を送るために、最も必要なことであり、私たちには、21世紀に向けて、後世に生きる子孫に、美しい自然・豊かな国土を伝える重大な責任があります。

事業者の皆様方におかれましても、計量精度の維持、新規有害物質分析技術の研究、環境情報の提供、顧客ニーズの調査など、御努力なされているところであり、同時に貴協会の今日までの御発展は歴代会長始め、役職員の御苦勞によるところであり、敬意を表する次第であります。

終わりに、千葉県環境計量協会のますますの御発展をお祈り申し上げますとともに、会員皆様の一層のご健勝、ご繁栄を祈念申し上げまして、挨拶といたします。



創立20周年を祝って

千葉市環境部長
齊 藤 眞

千葉県環境計量協会創立20周年おめでとうございます。私は只今御紹介いただきました千葉市環境部長、齊藤眞でございます。

此の度は、市町村代表ということで、誠に僭越でございますが、一言御祝辞を申し上げます。

本協議会が環境行政推進の要ともいべき環境計量技術の向上と計量の適正化を目的として設立され、自治体における公害防止対策や環境保全対策の推進に多大の貢献をされましたことに対しまして、改めて、御礼申し上げます。

顧みますと、我が国の経済をけん引してきた重化学工業から昨今では、技術革新による新素材、エレクトロニクス、バイオテクノロジー等新しい産業が次々におこされました。これらの化学技術の進歩と合わせて、計量評価技術も、飛躍的に高度になり、今や、分子や原子の領域の測定も可能にしております。

しかし、最近の技術革新による先端産業には環境に対して新たな公害が心配されております。

国は水濁法及び大防法を改正し、有害化学物質による環境汚染や健康被害の未然防止に取り組むことになりました。千葉市においても、只今、鋭意検討中であります。

本協議会におかれましても、今後の自治体の環境行政に、引き続きより一層の御協力をお願い申し上げますと共に、本日の20周年式典を契機といたしまして、各種の計量事業に益々の御発展と御繁栄をお祈り致しまして、祝辞とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。



祝 辞

社団法人 日本環境測定分析協会
専務理事 世 良 昇

只今ご紹介頂きました日本環境測定分析協会の世良でございます。

千環協が20周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

このおめでたい席にお招き頂きましたことを厚く御礼申し上げます。

さて、環境計量の業界も今や戦国時代の様相を示して参りました。1300億円の環境計量の小さいマーケット、周辺まで拡大しても2600億円のマーケットに、1400の事業者が参入して競争しているところに、データの品質向上のために多くの海外分析規格、制度などの参入、さらに大気汚染防止法改正に伴う有害大気汚染物質の新しい分析法への取り組みに苦勞しているところに、さらに海外からの日本マーケットをねらって攻勢をかけてくる気配など問題山積みの状態です。

どう切り抜けるか、皆さんそれぞれに工夫をしておられることと思いますが、私共、日環協も微力ながら問題解決の糸口になるような、お手伝いしております。

即ち、ラボ管理の基礎となるQA/QCへの取り組み、小さい規模の環境計量証明事業のための環境管理・監査体制整備、ISO/IECガイド25の思想を取り組んだ計量法事業規程の整備、有害大気汚染物質分析法に関する情報の提供などを行っております。

今後とも、相互に情報を交換しつつ、環境計量証明事業の発展に努力してまいりたいと思いますのでよろしくお願い致します。

おわりに千環協のますますのご盛栄を祈念いたしまして簡単ではございますが、お祝いのごあいさつに代えさせていただきます。

千環協創立 20 周年記念式典報告

千葉県環境計量協会の創立 20 周年を祝して 10 月 22 日、ちば共済会館において、記念式典、記念講演並びに祝賀会を盛大に挙行了た。

本協会は昭和 51 年 6 月、「環境計量に関する技術の向上と適正な環境計量の実施を確保すること」を目的として、各種事業を実施し、併せて関係諸機関との連携を密にしつつ、千葉県の公害対策並びに環境保全に寄与する事を目的として、環境計量証明事業の登録を千葉県知事に行った事業所を構成会員として、設立された団体である。

その後今日までの間、関係諸機関のご指導と全会員の発展のための不断の努力によって、社会的地位も向上し、現在、構成会員は 59 事業所に増大した。

式典には沼田武千葉県知事、岩瀬良三参議院議員（顧問）、齊藤眞千葉市環境部長、世良昇(社)日本環境測定分析協会専務理事、千葉県計量検定所、商工労働部、環境部、衛生部をはじめ県関係 19 名、市町村関係 11 名、関係団体 10 名、歴代理事 16 名、歴代事務局 2 名、会員 70 名、合計 130 名の参加のもとに名取副会長の式典開会挨拶で開会した。

始めに創立 10 周年以降より当協会の運営に尽力された方々に対して功労者表彰を行った。中村豊会長より表彰者を代表して後藤一郎第 4 代会長に会長表彰状の贈呈が行われた。引き続き中村会長からの式辞の後、沼田武千葉県知事、岩瀬良三参議院議員（顧問）、齊藤眞千葉市環境部長、並びに関係団体を代表して世良昇(社)日本環境測定分析協会専務理事から祝辞を頂戴した。

記念講演は「21 世紀の環境と文明－環境に対する考え方－」という演題で加藤三郎様からの講演を拝聴した。

祝賀会は野村副会長の挨拶、加藤元彦第 6 代会長による乾杯の音頭で始まり、発展への道を歩んだ此の 20 年を振り返り見て懇親を深めるとともに、今後の当業界の発展のための和やかな懇談が行われた。またアトラクションとして千葉県無形文化財指定の佐原囃子が披露された。

最後に北原成之元副会長の手締めにより、千環協にとって記念すべき日が終わり、そして輝かしい将来への第一歩が踏み出された。

表彰(功勞者)

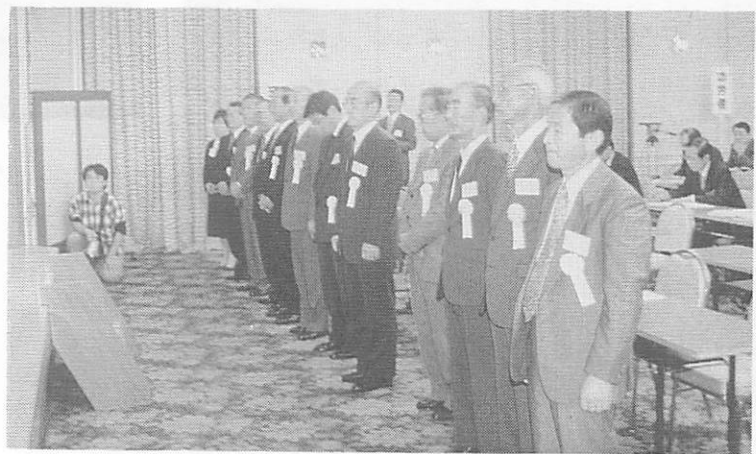
(順不同・敬称略)

後藤 一郎	(株)環境管理センター	(第4代会長)
加藤 元彦	(株)住化分析センター	(第6代会長)
鈴木 幸夫	日本軽金属(株)	(元副会長)
小谷 幸則	公害計器サービス(株)	(〃)
永山 瑞男	(株)永山環境科学研究所	(〃)
北原 成之	キッコーマン(株)	(〃)
高橋 直行	(株)環境管理センター	(〃)
岡崎 成美	出光興産(株)	(元理事)
高梨 正夫	浅野工事(株)	(〃)
有馬 富穂	(株)新日化環境エンジニアリング	(〃)
平野 安之	(株)住化分析センター	(〃)
保坂 穎紀	(株)環境管理センター	(事務局)
深名 志保子	(株)環境管理センター	(〃)



表彰状授与
(代表者 後藤一郎氏)

功勞者一同



20周年記念式典風景



中村会長挨拶

会長挨拶来賓祝辞



沼田千葉県知事 祝 辞



岩瀬参議院議員 祝 辞



齊藤千葉県環境部長 祝 辞



世良日環協専務理事 祝 辞

功労者表彰及び記念講演



表彰状授与（代表者 後藤一郎氏）



名取副会長による功労者の紹介



功労者表彰を受章された皆様



記念講演 加藤三郎様



会場内風景

祝賀会



野村副会長の挨拶



加藤元彦氏による乾杯の挨拶



パーティー風景



パーティー風景



アトラクション (佐原ばやし)

祝 賀 会



美味しい料理を前に



笑顔の後藤氏



パーティー風景



千環協の定番“お富さん”を
二人三脚で歌う会長と全員の手拍子



輝く30周年へ向けて
(北原氏による中締め)



21世紀の環境と文明

— 環境に対する考え方 —

(環境・文明研究所所長)

加藤 三郎

講師略歴；

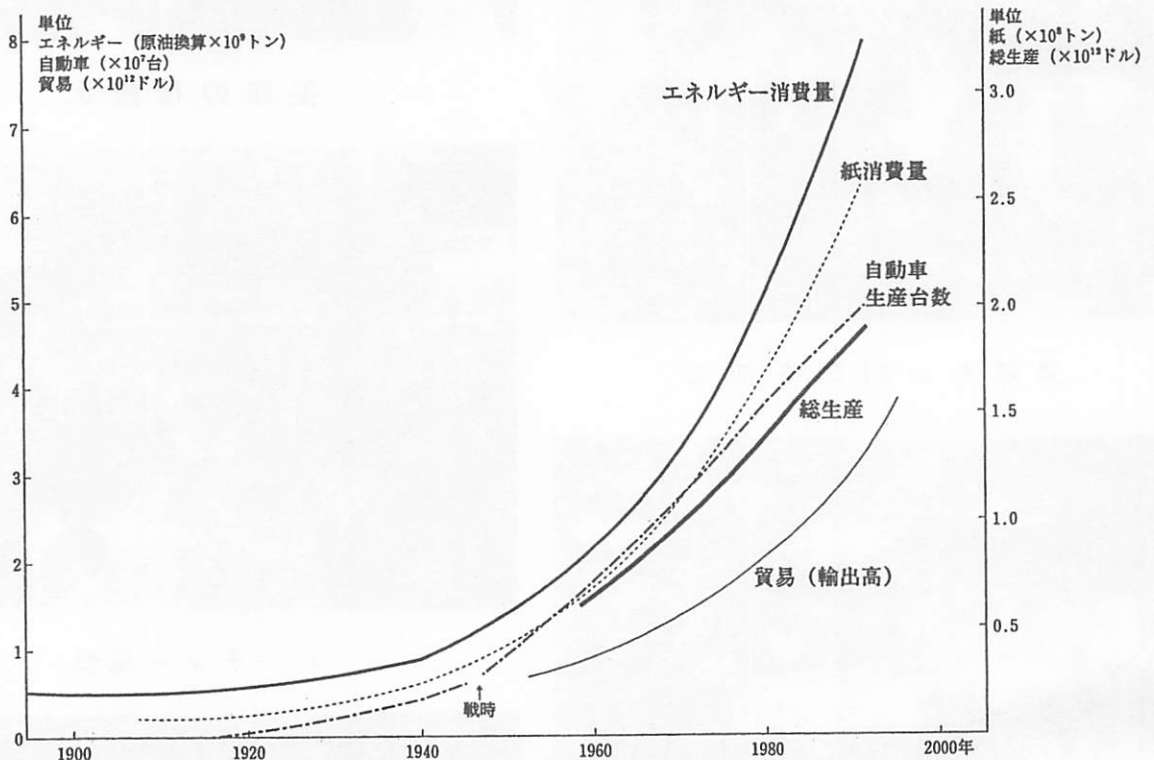
1939年東京生まれ。66年東京大学工学系大学院修士課程修了。同年厚生省入省。その後環境庁の設立に伴い、同庁にて公害・環境行政を担当。初代地球環境部長。93年退官。

環境・文明研究所を設立。

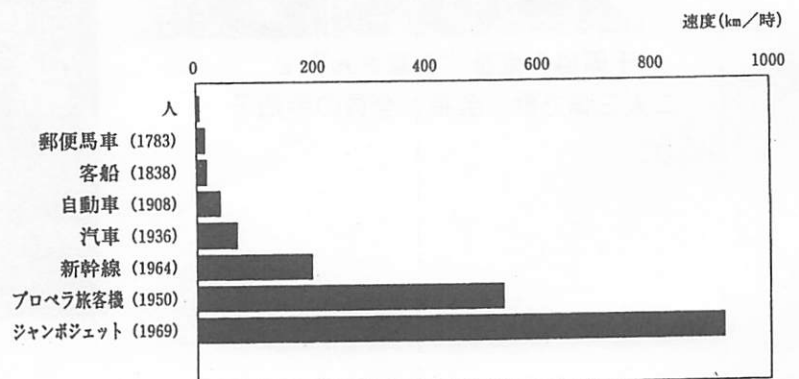
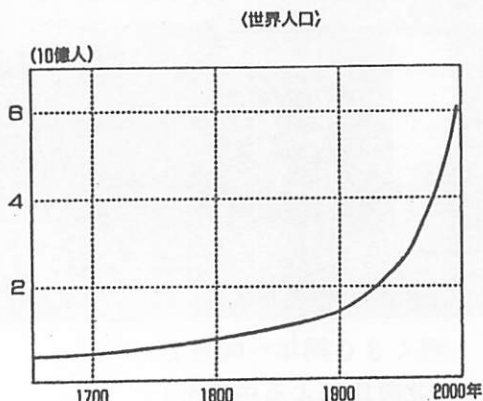
このほか(社)海外環境協力センター理事等。

1. 20世紀はバブルの世紀

・長い人類の歴史において、20世紀は極めて特異な世紀。環境問題から見たその特徴は、人口や生産量等のとどまることの知らない(幾何級数的な)増大である。



出所：加藤三郎著『環境と文明の明日』（プレジデント社）



スピードアップの歴史

出所：環境・文明研究所

2. 地球の環境は「うす皮」

- ・地球は、直径13,000kmほどの生命に満ちた球体で、かつては“無限”と考えられた。
- ・しかし、特に20世紀に入ってからの人間の活動量の爆発的増大により、今日ではその限界性が露呈した。（人類の活動範囲は地球の「うす皮」にすぎない。）
- ・地球の歴史は46億年。そのなかで人類歴史はたかだか500万年。しかも、現代の人類に直接つながるものは10万年程度。

→地球のこれまでの歴史を「1年間」に短縮したとしたら、人類の出現は「12月31日夜」。

- | | | | |
|-------|-----------|------------|-----------|
| ・北京原人 | 22時30分頃 | ・ネアンデルタール人 | 23時49分頃 |
| ・キリスト | 23時59分47秒 | ・聖徳太子 | 23時59分51秒 |
| ・産業革命 | 23時59分58秒 | | |

3. 1980年代後半から顕著になった地球環境の悪化は、 ついに人類が地球環境の限界を突き破ってしまったことを明示

(1) 地球環境の悪化

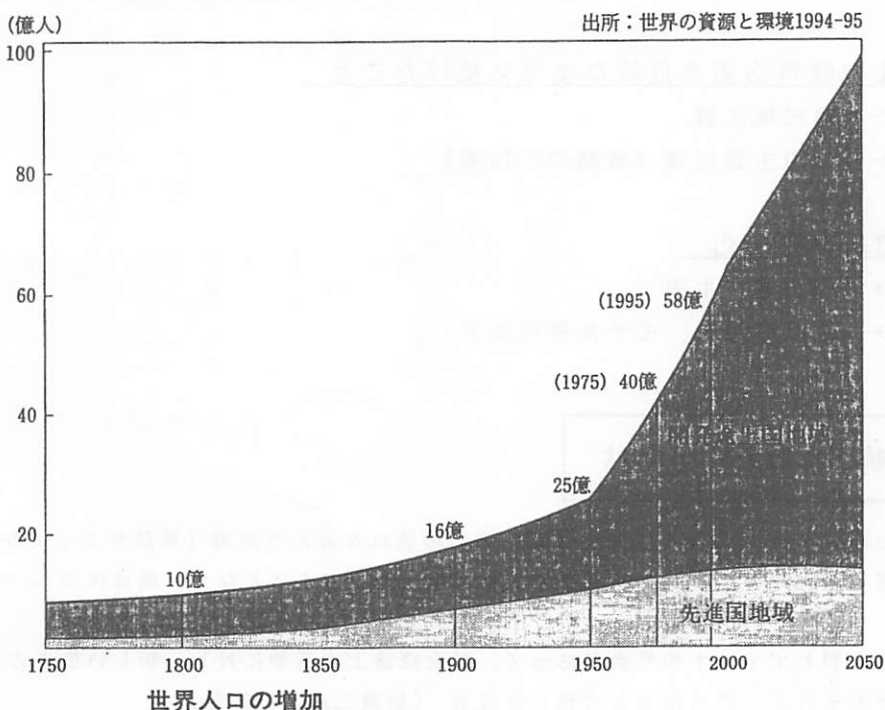
- ・地球の温暖化に伴う気候の変動、オゾン層の破壊、酸性雨被害の拡大、森林の損耗や生物種の減少等が、1980年代の後半からほぼ一斉に顕著になった。

(2) 食糧生産も80年代半ばからの頭打ち傾向

- ・1950～80年代半ばまでは、人口の増加を上回って食糧増産→食糧価格低迷、農業の地位低下

4. 21世紀は安全か

(1) 開発途上国人口の爆発的な伸び



(2) 南北間の危険なまでの格差の拡大 (先進国と途上国との格差)

	国名	年次推計人口 (1992) (百万人)	平均寿命 (1992) (才)	国民総生産 (1992) (米ドル/人)	エネルギー (1992) (石油換算kg/人)	鋼 (1992) (kg/人)	セメント (1993) (kg/人)	紙 (1993) (kg/人)	プラスチック (1993) (kg/人)	カロリー (1988~90) (kcal/人)	動物性 (88~90) (%)	蛋白質 (88~90) (g/人)	
先進7カ国	日本	124.5	78.7	28,190	3314	675	635	226	84	2,921	21.1	95.1	
	アメリカ合衆国	255.4	75.9	23,240	7516	391	312	321	114	3,642	30.4	109.9	
	ドイツ	80.6	76.0	23,030	4123	477	461	191	116	3,472	36.0	100.9	
	イギリス	57.8	76.2	17,790	3780	232	208	169	63	3,270	33.9	93.6	
	フランス	57.4	76.9	22,260	3803	280	338	155	61	3,593	38.5	112.9	
	イタリア	57.8	77.2	20,460	2813	446	653	128	79	3,498	25.7	107.4	
	カナダ	27.4	77.4	20,480	7675	376	248	219	76('92)	3,242	32.1	101.8	
	地域平均	76.8	23,228	5251	436	411	238	95	3,419	30.0	104.3	
	途上国	中国	1162.2	70.9	470	583	73	309	18	...	2,641	10.8	64.2
		インド	883.6	60.4	310	245	22	62	3.1	1.6	2,229	6.9	55.4
インドネシア		184.3	62.7	670	268	24	97	11	...	2,605	3.3	56.3	
パキスタン		119.3	59.0	420	209	...	72	2,280	12.5	61.9	
バングラデシュ		114.4	52.8	220	59	...	18	
地域平均		65.1	414	398	48	179	11	1.6	2,465	8.8	60.2	
平均格差 (先進国/途上国)		1.18	56	13	9.0	2.3	21	58	1.4	3.4	1.7	
途上国		ナイジェリア	101.9	52.5	320	164	...	46	2,200	2.6	45.4
		エジプト	54.7	61.6	640	494	...	273	3,310	7.8	84.6
		エチオピア	54.8	47.0	110	6.2
	ザイール	37.4('90)	51.6	230('90)	47	...	3.7	
	南アフリカ	39.8	62.9	2,670	1982	110	169	39	16	3,133	13.3	79.3	
	地域平均	54.5	653	532	110	93	39	16	2,692	6.2	63.2	
	平均格差 (先進国/途上国)	1.41	36	9.9	4.0	4.4	6.1	5.9	1.3	4.8	1.6	
	途上国	ブラジル	153.9	66.2	2,770	567	66	162	28	12	2,730	15.7	61.4
		メキシコ	85.0	70.3	3,470	1373	117	314	40	15('92)	3,062	18.2	80.2
		アルゼンチン	33.1	71.3	6,050	1396	78	169	3,068	31.1	99.2
コロンビア		33.4	69.3	1,330	599	...	216	2,453	16.2	55.8	
ペルー		22.4	64.6	950	339	...	108	
地域平均		68.0	3,012	848	84	204	32	13	2,829	18.1	70.1	
平均格差 (先進国/途上国)		1.13	7.7	6.2	5.2	2.0	7.4	7.4	1.2	1.7	1.5	

(環境要覧1994/1995, WORLD STATISTICAL REVIEW 1991-1993, 世界国勢図録'94, 最新地理統計1993年を参考にして環境文明研究所作成)
途上国は各地域で人口の多い上位5カ国

5. 20世紀の4つの“大罪”

(1) 限りある地球で、経済の基盤を大量生産、大量消費の「成長」路線に置いたこと

- ← 科学・技術の「成功」
- ← 自由主義経済

(2) 地球の環境資源をほとんど不可逆的に傷つけてしまったこと

- 気候変動、オゾン層の破壊、熱帯林の破壊、土壌や陸水の汚染、野生生物の減少等

(3) 南北の経済格差を危険なまでに拡げたこと

- ← 植民地主義
- ← 自由主義経済 (貿易の不均衡)

(4) 価値観の単一化

- 経済第一主義
- 家庭の基盤、モラル等の低下

6. 「持続可能な社会」とは

(1) 環境と開発に関する世界委員会 (1987年) の流れを汲んだ定義 (地球サミットから今日に至る)

「将来の世代がそのニーズを満たすための能力を損なうことなく、現代のニーズを満たす社会」

(2) 「南北を問わずすべての社会にあって、社会経済上の活動に対し、新しい生き方やアプローチをとり、

しかもそれが自然の保全と合致した社会 (加藤三郎, 1994年)」

(3) ハーマン・ディリー (Herman Daly) の三原則 (1991年)

- ①再生可能な資源の消費ペースは、その再生ペースを上回ってはならない。
- ②再生不能資源の消費ペースは、それに代わりうる持続可能な再生可能資源が開発されるペースを上回ってはならない。
- ③汚染の排出量は、環境の吸収能力を上回ってはならない。

(4) 『限界を超えて』の認識 (デニス・メドウズほか, 1992年)

①人間が必要不可欠な資源を消費し、汚染物質を産出する速度は、多くの場合すでに物理的に持続可能な速度を超えてしまった。物質およびエネルギーのフローを大幅に削減しない限り、一人当たりの食糧生産量、およびエネルギー消費量、工業生産量は、何十年か後にはもはや制御できないようなかたちで減少するだろう。

②しかしこうした減少も避けられないわけではない。ただし、そのためには二つの変化が要求される。まず、物質の消費や人口を増大させるような政策や慣行を広範にわたって改めること。次に、原料やエネルギーの利用効率を速やかに、かつ大幅に改善することである。

③持続可能な社会は、技術的にも経済的にもまだ実現可能である。持続可能な社会は、絶えず拡大することによって種々の問題を解決しようとする社会よりも、はるかに望ましい社会かもしれない。持続可能な社会へ移行するためには、長期目標と短期目標のバランスを慎重にとる必要がある。また、産出量の多少よりも、十分さや公平さ、生活の質などを重視しなければならない。それには、生産性や技術以上のもの、つまり、成熟、憐れみの心、知恵といった要素が要求されるだろう。

(5) シューマッハーの『スモール・イズ・ビューティフル (1973年)』より

「経済の観点からすると、英知の中心概念は永続性である。われわれは永続性の経済学を学ばなくてはならない。不合理な事態に陥ることなしに、長期間続くことが確かでない限り、なにごとにも経済的に意味がない。限定された目標に向かっての「成長」はあってもよいが、際限のない、全面的な成長というものはありえない。ガンジーが説いたように、「大地は一人ひとりの必要を満たすだけのものは与えてくれるが、食欲は満たしてくれない」というのが当たっていよう。」

7. 21世紀へ向けての3×3マトリックス

三つのツボ 三つの キーワード	価値観の転換	制度の変更	技術の革新
循環	<ul style="list-style-type: none"> ○「経済」の中身を問い直せ ○短期的な利益でなく、長期の持続性を尊重せよ ○リサイクルや自然への還元に重きを置け 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境学習や研修を通じて、現制度の問題点と変革の方向を探れ ○ドイツ・タイプの循環経済法を導入せよ ○環境・静脈産業を育成せよ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ソーラー、合併処理浄化槽、電気自動車、風力発電などの循環型の技術を鍛えよ
共存	<ul style="list-style-type: none"> ○生きとし生けるものの生命を大切に生物親を普及せよ ○すべての人を「地球市民」として助け合い、人類社会の持続性を図れ 	<ul style="list-style-type: none"> ○生物多様性の保護法制・行政組織を強化せよ ○環境ODAによる資金面、技術面、人材面での支援を強化せよ 	<ul style="list-style-type: none"> ○南への技術移転、共同開発を強化せよ ○合併などにより民間技術の移転を支援せよ
抑制	<ul style="list-style-type: none"> ○「もったいない」という感覚を広めよ ○「環境倫理」の確立と普及により、食欲を抑えよ 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境コストを価格、料金などに徹底的に内部化せよ ○環境負荷に対し、税・課徴金を導入せよ 	<ul style="list-style-type: none"> ○技術者教育を改めよ



回想・20周年によせて

後藤 一郎 (第4代会長)

創立20周年おめでとうございます。心よりおよろこびを申し上げます。

10周年のとき、巡り合わせで不肖私が会長を務めておりました。

記念式典に、沼田知事をはじめとして関係の方々多数のご臨席を賜り、ご祝辞を頂戴いたした晴れがましさを昨日のここのように思い出されます。

創立以来、千環協が社会的に認知されるべく会員一同努めてまいりましたが、この10周年を機にまた一段明るさを増したように感じました。そして、より一層の会員各位の協力と、会の充実を意図して千葉県環境測定分析協議会から現在の「千葉県環境計量協会」に改名したのも10周年が契機となりました。

協会の運営は諸先輩が構築された技術、企画、総務、業務の委員会と、それらが担当する諸活動を、関係ご当局のご指導をいたゞきつつ、会員各位の積極的な参加を得て丁寧な先達の跡をたどることで大任を果たすことができました。

協会の活動は広範多岐にわたりますが当然のことながら技術委員会が中心で、その下にクロスチェック、精度管理、計量管理のワーキンググループを置き、全体の技術レベルの向上に努めてまいりました。早くからクロスチェックの実施とその結果をテーマにパネルディスカッションを開いたり、分析測定の実例発表では失敗事例など貴重な経験も含まれ、真摯に技術の研鑽に努めておりました。検出値の処理方法、証明書記載事項の統一、試薬や機器類の点検整備の規定など研究成果を発表し適正な計量の確保に取り組んでおりました。これらのご指導は、計量検定所、水質保全研究所、公害研究所の方々に、また講演会や研修会などでは関係部局の方々のご協力をいたゞいて実現できたことで改めて感謝、御礼を申し上げる次第です。

さて、20周年を迎えた協会の現状を拝見すると、会員社数は59社、組織率も高く順調に発展しております。社会ニーズに対応した情報の収集や勉強会の実施、弛まぬ技術の研鑽、スポーツを通して深まる会員間の交流と親和、近隣都県での千環協の重要度が更に高まっております。その充実発展ぶりに会長をはじめ理事、会員各位にご同慶と心より敬意を表する次第です。

現在、千葉県では「2000年の千葉県」が着実に進展し、その実現を目のあたりにして21世紀は「千葉の時代」を実感しております。これらを環境の面から支える諸策がすすめられております。

これら環境新時代の負託に応えるべく協会におかれましては引き続き研鑽に励まれるようお願い申し上げます。水質、大気など規制の強化、拡大に向かいますし、自然や文化といったソフト面での環境に対する幅広い考えが求められております。加えて国際化に伴う大競争の到来も予測されております。

幸いにして、千環協会員は各業界のエキスパートの集まりで全国有数の技術力と人材を保有しております。会員相互の信頼をバネに協力し合えば立派に地域の負託に応えることができることを確信しております。

おわりに、千環協の一層のご発展を祈念いたします。



千環協創立20周年にむけて

茂 木 義 資 (第5代会長)

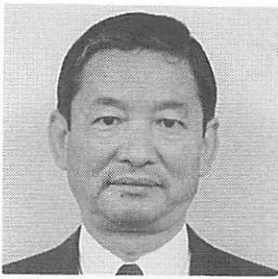
創立20周年おめでとうございます。

この10年間は会の名称を協議会から協会に変更するなど、組織の充実等着実に進めてこられたことをお喜び申し上げます。

創立祝賀ということは、私にとって強烈な印象がございます。それは創立10周年式典の年、即ち昭和61年6月に前任者のあとを継いで、環境計量の仕事にはかけ出しの私が副会長となり、式典の司会をすることになり、厚かましくお引き受けしました。過密スケジュールでお忙しいメインゲストの知事さんのご祝辞をなんとか予定時間に収めてご退席いただいた時は本当に緊張したことを覚えております。

私の会長時代は、長くお続けいただいた名会長 後藤さんのあとを受けて、しかも私の都合で任期を満了せず退任させていただきましたが、僅かな間でも日環協関東支部や首都圏環協連のセミナーを千葉で開催するなど、役員の皆様方の協力で滞ることなく当番の役目を果たし、しかも盛会裡に終えることが出来、誠に貴重な体験をさせていただくことが出来ました。

不況、不況といわれる中で、お仕事もやりにくいこととは思いますが、協会を中心に会員一丸となって発展し、来るべき21世紀に向かって力強く前進することを祈念してお祝いの言葉と致します。



千環協 20周年おめでとうございます。

加 藤 元 彦 (第6代会長)

私は、キッコーマン(株)の茂木様のあとを引き継ぎまして、平成4年4月から平成6年3月までの2年間、会員及び理事の皆様がたの暖かいご支援を頂いて、第6代の千環協会長を勤めさせて頂きました。弊社の業務の都合上私が愛媛県新居浜市に転勤することになり、あとを中外テクノス(株)の中村様に引き継いで頂きましたが、この2年間は本当に楽しい会長つとめでした。

経験の浅い若輩ものの私などは、歴代の会長さん、特に現在も日環協の副会長の重職についておられる(株)環境管理センターの後藤様などが築かれた千環協の路線の上を歩くだけで、何も千環協に対して寄与することもないうまま、2年間が楽しい思いだけで過ぎてしまい、会員の皆様には申し訳ないと思うくらいでございます。

また、私が会長をお引き受けするにあたり、それまで会長事務所についてまわっていました事務局業務を、専任的に引き継いだ(株)環境管理センター様に、今さらながら厚くお礼を申し上げたいと思います。

私事になりますが、昨平成7年10月からは東京勤務を命じられ、社内の環境関係の企画・取りまとめ業務を担当致しております。

昨平成7年末には、日環協の米国環境事業視察にも参加しまして、その印象を“環境と測定技術”誌に拙文ながら掲載させて頂きましたが、環境測定分析業界は今大変な曲がり角にさしかかっているように思います。

環境ビジネス自体はこれからも成長が期待出来ると思われるものの、今回の大気汚染防止法の改正の際にも自主規制への動きが強められていることで示されているような規制緩和の時代に、法規で規定されていることもあって、日本の環境測定分析業界にとっては安定した産業になっていると考えられる排出口の定期的測定が、いつまでも継続されるものなのかどうか。

また、ISO-9000やISO-14000等で代表される国際化の時代に、QA・QC等が整備されていて、しかもLIMS等のシステムが整備されていてコストが安い(円高のせいもかなりありますが)、米国業者に席卷される恐れはないものなのかどうか。

千環協も20周年を迎え、完全に“大人”になりきったのですが、それだけに悩みも多い年頃と言えます。そうした悩みも一丸となって乗り切ることで、ますます頼りがいのある“大人”に成長されることを期待してやみません。

計 量 法 関 係 動 向

昭 和 61 年	<p>【計量法第20次改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気計器等の検定等の主体に指定検定機関が追加 <p>【計量法施行令改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NTT、ガス、電気供給業に係わる計量器使用事業の指定権限を大臣から知事へ委任 <p>【計量法施行規則改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験合格による環境計量士の登録要件に「環境計量に関する実務に1年以上従事した者」を新たに追加
昭 和 62 年	<p>【計量施行令改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圧力の補助計量単位に新たにヘクトパスカルを追加 ・竹製の巻尺等7機種を計量法の対象となる計量器から除外した <p>【計量器検定検査令改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直示てんびんを検定を行わない計量器に追加 <p>【基準器検査令改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基準台手動はかりの一部の基準器検査の事務を知事に委譲 ・基準直尺等9器種の基準器検査の有効期間を延長 ・日本国有鉄道の民営化に伴い計量器使用事業場の指定権限を知事へ移行
昭 和 63 年	<ul style="list-style-type: none"> ・輸入計量器のうちガラス製体温計、アネロイド型血圧計の検定を(財)機械電子検査検定協会が行うこととなる
平 成 元 年	<p>【計量法第21次改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費税導入により計量関係手数料等改正 <p>【計量器検定検査規則改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気抵抗線式はかりの質量の1目盛の値等と表す量の比を「6000分の1以上」に改正 ・基準こうかん、基準電気抵抗線式ロードセルを使用して検査のできるはかりの範囲をひょう量が「30kg以上の」はかりに拡大 ・デジタル式振動レベル計の技術基準の追加 <p>【基準器検査規則改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LPG用基準浮ひょう型密度計の目盛範囲の下限を「0.47g/cm³」に改正
平 成 2 年	<p>【計量法第22次改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温度の現示の方法の定義を改正（国際度量衡総会の採択を導入） ・24年ぶり計量法全面見直しの方針固める

平成3年	<p>【計量器検定検査令改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石油ガスメーターの有効期間の延長（10年） <p>【計量法規則関係改正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特殊容器の型式変更等 ・アネロイド型血圧計の技術基準の改正 ・計量制度100年記念
平成4年	<ul style="list-style-type: none"> ・新計量法が5月20日公布される <p>改正の主な要点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 計量単位の国際単位系（S I）への統一 2. 計量器に係わる規制の見直し 3. 計量標準認証制度の創設 4. 消費者保護関連制度の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・計量法施行期日を定める制令（11／1）、計量単位令（11／1）、計量単位規則（11／30）の公布
平成5年	<ul style="list-style-type: none"> ・「特定商品の販売に係わる計量に関する制令」の公布 ・計量法施行令の公布 ・計量法関係手数料令の公布 ・計量法施行規則ほか各省令が順次公布 ・「新計量法」施行 ・新計量法施行関係告示（指定校正機関告示ほか）相次ぐ ・計量記念日を11／1に変更する通達 ・(財)機械電子検査検定協会が(財)日本品質保証機構（JQA）に名称変更
平成6年	<ul style="list-style-type: none"> ・騒音・振動レベル計用レベルレコーダーが検討対象となる
平成7年	<p>計量証明対象物質名及び計量の方法と機器または装置について通達が出る</p>

千葉県の主なできごとと環境関係の動向

	千葉県の主なできごと	環境関係の動向
昭和61年	<ul style="list-style-type: none"> 日本コンベンションセンター設立 県立房総のむら開設 千葉ポートタワー開業 上総新研究開発都市の第一期事業化計画作成 木原線が第三セクター方式で存続決定 	<ul style="list-style-type: none"> 「千葉県炭化水素対策指導要綱」制定 「ふるさと千葉環境プラン」策定 「千葉廃棄物処理施設の設置及び維持管理に関する指導要綱」制定 騒音規制法及び振動規制法に基づく規制地域の拡大等を県告示
昭和62年	<ul style="list-style-type: none"> 千葉都市モノレール「タウンライナー」の試運転 幕張メッセの起工式 	<ul style="list-style-type: none"> 印旛沼、手賀沼の「湖沼水質保全計画」を策定 第2次「東京湾COD総量削減計画」策定 第2次「東京湾富栄養化対策指導指針」策定
昭和63年	<ul style="list-style-type: none"> 市原市で3世紀の前方後円墳発見 千葉市モノレール開業 JR京葉線が蘇我―新木場間で延長開業 	<ul style="list-style-type: none"> 騒音規制法及び振動規制法に基づく規制地域の一部改正等を県告示
平成元年	<ul style="list-style-type: none"> 東京湾横断道路の起工式 県内各地で集中豪雨 幕張メッセがオープン 国指定史跡に無断で道路建設 	<ul style="list-style-type: none"> 「千葉県地下水汚染防止対策指導要綱」の制定 「ふるさと千葉のゴミ問題を考える懇談会（トーク・ザ・クリーンちば）」の設置 「千葉県環境影響評価の実施に関する指導要綱」一部改正
平成2年	<ul style="list-style-type: none"> JR京葉線全線開業 千葉マリンスタジアムオープン 深刻な水不足で取水制限 安房郡農家でコピー牛誕生 外房地方を竜巻が襲い大被害 	<ul style="list-style-type: none"> 県内企業49社と公害防止細目協定を改定締結 千葉県県外産業廃棄物の適正処理に関する指導要綱」制定 「千葉地域公害防止計画」 「ふるさと千葉アメニティプラン」策定 「千葉県地域環境保全基金条例」策定 「千葉県自然公園等における建築物建設に係る指導要綱」制定

平成3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ かずさアカデミアパーク起工式 ・ 袖ヶ浦市誕生 ・ 千葉都市モノレールがJR千葉駅に乗り入れ ・ 三番瀬埋め立て問題を考えるシンポジウム開催 ・ 国民文化祭開催 ・ 成田空港シンポジウム開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京湾の第3次「化学的酸素要求量に係る総量削減計画」策定 ・ 水質汚濁防止法に基づく生活排水対策重点地域に千葉市、松戸市及び柏市を指定 ・ 「千葉県みどりの基金条例」制定 ・ 「千葉県立自然公園条例」一部改正（車馬の使用等の制限） ・ 「千葉県自然環境保全条例」一部改正（車馬の使用等の制限等） ・ 「千葉県産業廃棄物処理計画」（3年度～7年度）策定 ・ 第3次の「東京湾富栄養化対策指導指針」策定 ・ 騒音規制法、振動規制法に基づく規制地域の拡大等を県告示 ・ 悪臭防止法に基づく規制地域等を県告示（旧告示は廃止）（千葉市等43市町村） ・ 航空機騒音に係わる環境基準の地域類型指定の一部改正を県告示（下総飛行場関係2市2町）
平成4年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 千葉市の政令指定都市移行 ・ 千葉ロッテマリーンズ誕生 ・ 全国豊かな海づくり大会開催 ・ 青葉の森公園芸術文化ホール完成 ・ 幕張新都心の街づくりで日本都市計画学会の「石川賞」受賞 ・ 千葉急行線部分開業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「千葉県自動車交通公害防止計画」策定 ・ 「千葉県環境学習基本方針」策定 ・ 「千葉県定置型内燃機関窒素酸化物対策指導要綱」制定 ・ 「千葉県化学物質環境保全対策指導指針」の施行 ・ 「千葉県環境会議」の設置 ・ 「千葉県環境調整検討委員会」の設置 ・ 「みどりの基本構想」の策定 ・ 「地球環境フェスティバルちば'92」の開催
平成5年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成田空港問題円卓会議の開催 ・ 谷津干潟のラムサール条約登録 ・ 県誕生百二十周年記念事業 ・ 大手出版社長らによる成田空港開港以来の大型コカイン密輸事件の検挙 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「千葉県環境憲章」の制定 ・ 「千葉地域公害防止計画」 ・ 「ふるさと千葉のゴミ減量推進協議会」の設置 ・ 「アジア・太平洋環境会議」の開催 ・ 「湖沼水質保全特別措置法に基づく汚濁負荷量に係る規制基準」（窒素含有量及び磷含有量）制定 ・ 「千葉県地球環境保全行動計画」の策定 ・ 自動車NOx削減法に基づき「千葉県自動車排出窒素酸化物総量削減計画」策定

平成6年	<ul style="list-style-type: none"> 成田空港問題円卓会議の終結 かずさDNA研究所の開所とかずさアカデミックセンターの着工 千葉県科学会議の開催 千葉県立現代産業科学館の開館 	<ul style="list-style-type: none"> 「計量法」施行に伴い騒音規制法の規制基準の一部改正告示（ホン→デシベル） 悪臭防止法に基づく規制基準告示（追加10物質） 「千葉県廃棄物情報技術センター」の設置 「千葉県環境審議会」設置 「千葉県ごみ減量化推進県民会議」設置 「千葉県のごみの減量化と再資源化を進める基本方針」策定
平成7年	<ul style="list-style-type: none"> 館山自動車道路の開通 千葉新時代5カ年計画の策定 第十二回全国都市緑化千葉フェアの開催 成田空港地域共生委員会の開催 千葉都市モノレール一号線の開業 家庭ゴミ指定袋制度スタート 千葉ロッテマリーンズがパ・リーグ二位 	<ul style="list-style-type: none"> 県内企業53社と公害防止細目協定を改定締結 「千葉県炭化水素対策指導要綱」一部改正 高滝ダム上流域水道原水水質保全事業実施促進計画を策定 「千葉県環境基本条例」の制定 「千葉県環境保全条例」の制定 「公共事業における産業廃棄物の再資源化及び再生品の利用の促進に関する基本方針」の策定 「千葉県廃棄物処理施設の設置及び維持管理に関する指導要綱」の一部改正 「千葉県のごみ減量化行動計画」策定 地盤沈下防止協定細目協定の改定（天然ガス関係）
平成8年	<ul style="list-style-type: none"> 東葉高速鉄道開通 成田空港元小川派代表が移転同意 耐震対策充実強化 0157感染女児死亡 水不足による30%利根川取水制限 	<ul style="list-style-type: none"> 「千葉県溶融スラグ利用促進指針」の策定 「千葉県定置型内燃機関窒素酸化物対策指導要綱」の一部改正 「化学的酸素要求量に係る総量規制基準」の設定 騒音規制法、振動規制法及び悪臭防止法に基づく規制地域の一部改正の県告示 「東京湾富栄養化対策指導指針」の策定

事業活動の実績

年度	月 日	活 動 内 容
昭 和	4. 17	第11回通常総会（千葉県自治会館） 出席28社（委任状12社）／44社 会名を「千葉県環境計量協会」に改称
	5. 14	第59回理事会（千葉県職員会館）
	5. 28	親睦ゴルフ大会（鶴舞カントリークラブ） 優勝 猿渡素矩氏（房総ファイン㈱）
	6. 4～7	「計量なるほど展」協力
	6. 16	合同委員会（千葉県職員会館）
	7. 20	千環協ニュースNo23発行
	8. 27	第60回理事会（千葉県自治会館）
	9. 17	研修会（いこいの村 美の山）
	～18	「先端産業と環境問題」他
	9. 25	研修見学会（川崎製鉄㈱千葉製鉄所）
	9～10	第5回ソフトボール大会（各地区予選）
	10. 15	第61回理事会（千葉商工会議所）
	62 年	11. 12
11. 26		技術委員会WG成果発表会（千葉県自治会館） 出席29社55名
12. 10		第62回理事会（千葉県職員会館） パネルディスカッション・講演会（千葉県職員会館） 出席15社21名
1. 21		新春講演会・賀詞交歓会（千葉県自治会館） 出席34社68名 労働衛生検査センター測定分析室 今泉敬七郎氏 「アスベストの測定と諸問題」 千葉県環境部環境調整課計画係 牧野敬一氏 「（2000年の千葉県）その展望と（ふるさと千葉環境プラン） について」 千環協案内62年版発行
2. 9		第63回理事会（千葉県自治会館）
2. 20		千環協ニュースNo24発行
3. 23		第1回経営懇談会
4. 17		第5回ソフトボール大会 決勝戦（住化グランウド） 優勝 ㈱住化分析センター

年度	月 日	活 動 内 容
昭 和 63 年	4. 7	第64回理事会(千葉県自治会館)
	4. 21	第12回通常総会(千葉県自治会館) 出席29社(委任状10社) / 45社
	5. 12	第65回理事会(千葉県職員会館)
	6. 2~5	「計量なるほど展」協力
	6. 9	親睦ゴルフ大会(太平洋クラブ市原コース) 優勝 猿渡素矩氏(房総ファイン株)
	6. 20	千環協ニュースNo25発行
	6. 23	第66回理事会・合同委員会(千葉県自治会館) 出席33社46名
	8. 26	研修見学会(千葉県水産試験場 他)
	8. 28	第6回ソフトボール大会 1回戦(川鉄グラウンド)
	8.	アスベスト分析に関するアンケート調査
	9. 8	第67回理事会(千葉県自治会館)
	10. 18	親睦ゴルフ大会(本千葉カントリークラブ) 優勝 今西克司氏(ヨシザワLA株)
	10. 27	第68回理事会(千葉県自治会館)
	11. 20	第6回ソフトボール大会 決勝戦(住化グラウンド) 優勝 (株)新日化環境エンジニアリング
	12. 2	パネルディスカッション・講演会(千葉県自治会館) 出席20社35名
	1. 9	技術委員会WG成果発表会・第1回技術事例発表会 (千葉県自治会館)
	1. 20	千環協ニュースNo26発行
1. 26	新春講演会・賀詞交歓会(千葉県自治会館) 出席33社64名 千葉県計量検定所 藤代渡氏 「計量法の概要」 千葉県環境部環境調整課 金子弥四郎氏 「千葉県における環境アセスメントの実施状況とその特色」	
2. 20	第70回理事会(千葉県自治会館) 「千環協としての統一した消費税対策の検討」会議 (千葉県自治会館) 出席30社46名	
平 成 元 年	4. 6	第71回理事会(千葉県自治会館)
	5. 22	第13回通常総会(千葉県自治会館) 出席27社(委任状11社) / 45社
	6. 8	第72回理事会(千葉県自治会館)
	7. 6	合同委員会(千葉県自治会館)

年度	月 日	活 動 内 容	
平成元年	9. 18	第73回理事会 (千葉県自治会館)	
	10. 12	研修見学会 (㈱日立製作所那珂工場)	
	10. 20	千環協ニュースNo27発行	
	11. 21	技術委員会WG成果発表会・第2回技術事例発表会 パネルディスカッション (千葉県自治会館) 出席31社52名	
	12. 7	第74回理事会 (千葉市内 波奈)	
	12. 9	第7回ソフトボール大会 (八千代市総合運動公園) 優勝 (㈱新日化環境エンジニアリング)	
	1. 26	臨時総会 (千葉県自治会館) 「退任理事の補充議案」 出席18社 (委任状13社) / 45社 新春講演会・賀詞交歓会 (千葉県自治会館) 出席35社62名 千葉県環境部環境調整課 喜多大次郎氏 「千葉県の環境の現状と対策」 日立計測エンジニアリング(㈱)テクノリサーチセンター 酒井 馨氏 「分析機器の多角的利用法ー環境汚染を中心としてー」	
	3. 20	千環協ニュースNo28発行	
	平成2年	4. 18	第75回理事会 (千葉県自治会館) 第14回通常総会 (千葉県自治会館) 出席26社 (委任状9社) / 45社
		5. 17	第76回理事会 (千葉市内 波奈)
5. 23		第11回親睦ゴルフ大会 (泉カントリークラブ) 優勝 菅谷光夫氏 (㈱ダイワ)	
6. 4		合同委員会 (千葉県労働者福祉センター) 出席25社38名 「飲料水検査実態調査」報告 他 「計量なるほど展」協力	
7. 13		研修見学会 (千葉県内水面水産試験場 他)	
7. 20		千環協ニュースNo29発行	
9. 13		第77回理事会 (セイコー 箱根荘)	
9. 23		第8回ソフトボール大会 (住化グラウンド) 優勝 川鉄テクノリサーチ(㈱)	
10. 20		講演会 (千葉県労働者福祉センター) 出席30社46名	
10. 30		第78回理事会 (千葉県自治会館)	
11. 2		第12回親睦ゴルフ大会 (鶴舞カントリークラブ)	

年度	月 日	活 動 内 容
平成2年	11. 20	優勝 山本吉彦氏 技術委員会WG成果発表会・第3回技術事例発表会 (千葉県労働者福祉センター) 出席25社50名 千環協ニュースNo30発行
	12. 4	パネルディスカッション・講演会 (千葉県労働者福祉センター) 出席38名
	12. 6	第79回理事会(セイコー 鎌ヶ谷保養所)
	1. 16	新春講演会・賀詞交歓会(千葉県自治会館) 出席28社52名 千葉県衛生部薬務課 進藤攻氏 「小規模水道とその規制について」 千葉県衛生部衛生指導課環境衛生指導係 伊藤仁司氏 「特定建築物の貯水槽の維持管理について」 千葉県農業試験場生産環境試験室 丸論氏 「農薬の分析等について」
	2. 6	第4回経営問題懇談会(千葉県自治会館) 出席12社14名
	3. 20	千環協ニュースNo31発行
	平成3年	4. 18
5. 22		第81回理事会(千葉県自治会館)
6. 7		第13回親睦ゴルフ大会(本千葉カントリークラブ) 優勝 本田優氏(住友セメント(株))
6. 12		合同委員会(千葉県自治会館) 出席26社40名
7. 4		第82回理事会(千葉県自治会館)
7. 19		研修見学会(もの知りしょうゆ館 他)
7. 20		千環協ニュースNo32発行
9. 3		千環協案内平成3年度版発行
9. 6		千環協主催 首都圏連絡会研修会(ちば共済会館) 出席92名
9. 27		第83回理事会(千葉市内 波奈)
9. 29		第9回ソフトボール大会(出光千葉製油所サッカー場) 優勝 (株)新日化環境エンジニアリング
10. 25~ 26	千環協主催 日環協環境セミナー(第3回) 関東甲信越大会 (ちば共済会館) 出席130名	
11. 8	第14回親睦ゴルフ大会(泉カントリークラブ)	

年度	月 日	活 動 内 容
平成3年	11.14～ 17	優勝 富田陽美氏 (房総ファイン(株)) 「計量なるほど展」協力
	11.26	技術委員会WG成果発表会・第4回技術事例発表会 (千葉県自治会館) 出席29社57名
	12.9	パネルディスカッション・講演会 (青雲閣) 出席26社41名
	12.12	第84回理事会 (セイコー 鎌ヶ谷保養所)
	11.30	千環協ニュースNo33発行
	1.23	新春講演会・賀詞交歓会 (青雲閣) 出席30社52名 千葉県環境部環境調整課環境政策室 久保木伸浩氏 「千葉県における環境行政について」 千葉県公害研究所 石井皓氏 「都市騒音・自動車騒音・生活騒音」 千葉県水質保全研究所 本橋敬之助氏 「手賀沼における水環境と浄化」
	2.4	第5回経営問題懇談会 (千葉県自治会館) 出席9社10名
	2.20	千環協ニュースNo34発行
	3.13	第85回理事会 (出光 大原荘)
	平成4年	4.13
4.21		第16回通常総会 (ちば共済会館) 出席33社 (委任状16社) / 51社 第6代会長に加藤元彦氏 (㈱住化分析センター) 就任
6.12		第15回親睦ゴルフ大会 (太平洋クラブ市原コース) 優勝 鈴木郁夫氏 (ヨシザワL A(株))
6.16		第87回理事会 (千葉県自治会館)
6.24		合同委員会 (ちば共済会館) 出席30社47名
7.17		研修見学会 (手賀沼浄化施設 他)
7.20		千環協ニュースNo35発行
9.2		第88回理事会 (千葉市内 波奈)
9.20		第10回ソフトボール大会 (出光千葉精油所サッカー場) 優勝 (株)新日化環境エンジニアリング
11.26		技術委員会WG成果発表会・第5回技術事例発表会 (千葉県自治会館) 出席30社52名
12.2	パネルディスカッション・講演会 (ちば共済会館)	

年度	月 日	活 動 内 容
平成4年	12.12	出席32社47名 第89回理事会(出光 鹿野山寮)
	12.20	千環協ニュースNo36発行
	1.20	新春講演会・賀詞交歓会(ちば共済会館) 出席26社48名 千葉県環境研究所 金子弥四郎氏 「ブラジルでの地球サミットの視察を終えて」 セイコー電子工業(株) 松原道夫氏 「水質分析の公定法と原子スペクトル分析法」
	2.20	第6回経営問題懇談会(千葉県自治会館) 出席9社9名
	3.13	第90回理事会(出光 大原荘)
	3.20	千環協ニュースNo37発行
	平成5年	4.22
5.19		第91回理事会(ちば共済会館) 合同委員会(ちば共済会館) 騒音・振動WG発足
5.28		第17回親睦ゴルフ大会(泉カントリークラブ) 優勝 神野基行氏(株)住化分析センター)
7.2		新環境水質基準対応特別委員会(千葉商工会議所) 出席25社
7.16		研修見学会(株)環境管理センター環境基礎研究所 他)
7.20		千環協ニュースNo38発行
7.26		第92回理事会(千葉県自治会館)
9.19		第11回ソフトボール大会(出光 千葉精油所グラウンド) 優勝 川鉄テクノリサーチ(株)
9.23		第93回理事会(セイコー 八ヶ岳山荘)
9.30		千環協案内平成5年度版発行
10.7		新環境水質基準対応特別委員会 千葉県環境部へ要望書提出
11.5		第94回理事会(千葉県自治会館) 技術委員会WG成果発表会・第6回技術事例発表会 (千葉県自治会館) 出席31社59名
11.19		パネルディスカッション・講演会(ちば共済会館) 出席32社53名
12.20		千環協ニュースNo39発行
12.23	第95回理事会(出光 山武研修センター)	

年度	月 日	活 動 内 容
平成5年	1. 27	新春講演会・賀詞交歓会（ちば共済会館） 出席29社48名 環境庁大気保全局特殊公害課臭気対策係 前川清三郎氏 「悪臭追加物質とその測定方法について」 千葉県環境部水質保全課地下水汚染対策室 安藤純一氏 「水質に係わる新基準等の環境行政の動向」
	2. 18	第7回経営問題懇談会（千葉県自治会館） 出席12社14名
	3. 13	第96回理事会（南伊豆町 長江）
	3. 20	千環協ニュースNo40発行
平成6年	4. 28	第18回通常総会（ちば共済会館） 出席31社（委任状17社）／57社 第7代会長に中村豊氏（中外テクノス㈱）就任
	5. 19	第97回理事会（ちば共済会館） 合同委員会（ちば共済会館） 調査開発WG発足
	5. 26	第19回親睦ゴルフ大会（本千葉カントリークラブ） 優勝 高野不二男氏（セイコーアイ・テクノリサーチ㈱）
	6. 20	調査開発WG発足準備会（千葉商工会議所）
	7. 1	研修見学会（千葉県立現代産業科学館 他）
	7. 19	第98回理事会（千葉商工会議所）
	7. 20	千環協ニュースNo41発行
	8.	千環協案内平成6年度版発行
	9. 11	第99回理事会（セイコー 八ヶ岳山荘）
	9. 18	第12回ソフトボール大会（セイコー谷津プラザ） 優勝 川鉄テクノリサーチ㈱
	11. 18	第20回親睦ゴルフ大会（CPGカントリークラブ） 優勝 高橋直行氏（環境管理センター㈱）
	11. 25	技術委員会WG成果・第7回技術事例発表会（千葉県自治会館） 出席33社62名 第100回理事会（千葉県自治会館）
	12. 8	パネルディスカッション・講演会（ちば共済会館） 出席23社38名
	12. 25	千環協ニュースNo42発行
1. 30	新春講演会・賀詞交歓会（ちば共済会館） 出席33社53名 千葉県廃棄物情報センター 原雄氏 「センター技術開発の業務紹介と再生品使用時の安全性の考え方」	

年度	月 日	活 動 内 容
平成6年		日本検査キューエイ㈱ 斎藤喜孝氏 「環境監査の動向と監査手順」 第101回理事会 (ちば共済会館)
	2. 20	第8回経営問題懇談会 (千葉県自治会館) 出席13社13名
	3. 20	千環協ニュース№43発行
	3. 24	第102回理事会 (出光 保田寮)
平成7年	4. 20	第19回通常総会 (ちば共済会館) 出席33社 (委任状20社) / 59社 兵庫県南部地震救援募金に協力
	5. 19	第103回理事会 (千葉市内 船場)
	5. 25	第21回親睦ゴルフ大会 (太平洋クラブ市原コース) 優勝 後藤一郎氏 (環境管理センター㈱)
	6. 6	合同委員会 (ちば共済会館)
	7. 13	研修見学会 (千葉県中央防災センター 他)
	7. 26	第104回理事会 (千葉市内 船場)
	9. 10	第105回理事会 (セイコー八ヶ岳山荘)
	9. 29	千環協主催 首都圏環協連合研修見学会 (谷津干潟 他)
	10. 22	第13回ソフトボール大会 (セイコー谷津スポーツプラザ) 優勝 (株)住化分析センター
	11. 9	技術委員会WG成果発表会・第8回技術事例発表会 (千葉県自治会館) 会員38社77名、一般10社11名出席
	11. 10	「計量なるほど展」協力 第106回理事会 (千葉県自治会館)
	11. 16	第22回親睦ゴルフ大会 (千葉新日本ゴルフ倶楽部) 優勝 飯島公勇氏 (キッコーマン㈱)
	11. 22	計量関係団体代表者会議 参加
	12. 8	パネルディスカッション・講演会 (ちば共済会館) 15社25名出席
	1. 26	第107回理事会 (セイコー電子工業㈱幕張本社)
	1. 30	新春講演会・賀詞交歓会 (ちば共済会館) 37社63名出席 千葉県環境部環境調整課環境政策室 鈴木一男氏 「21世紀に向けた本県環境の長期構想について」 (株)環境管理センター 岸田澄江氏 「ISO14001と環境管理システムについて」
2. 20	第3回計量関係団体代表者会議に参加	

年度	月 日	活 動 内 容
平成 7 年	2. 28	第9回経営懇談会（千葉勤労市民プラザ） 東京、埼玉、神奈川環協の参加含め33名出席 「環境測定に関わる作業の安全性」
	3. 20	第108回理事会（出光 保田寮）
平成 8 年	4. 5	20周年記念行事実行委員会（㈱環境管理センター）
	4. 18	第20回通常総会（ちば共済会館）
	4. 19	第4回計量関係団体代表者会議（センシティブタワー）
	5. 22	第23回親睦ゴルフ大会（鶴舞カントリークラブ） 優勝 石澤善博氏（日本軽金属㈱）
	5. 23	第109回理事会（ちば共済会館） 合同委員会（ちば共済会館）
	6. 27	20周年記念行事実行委員会
	7. 17	第110回理事会（船場） 20周年記念拡大実行委員会（船場）
	7. 24	研修見学会（東京都大田清掃工場他）
	8. 8	第1回千葉県計量協会（法人設立準備委員会）（正木屋）
	8. 30	20周年記念拡大実行委員会（ちば共済会館）
	9. 6	第111回理事会（セイコー八ヶ岳山荘）
	10. 6	第14回ソフトボール大会（稲毛海浜スポーツ施設） 優勝 ㈱新日化環境エンジニアリング
	10. 15	第2回千葉県計量協会（法人設立準備委員会）（県自治会館）
	10. 22	20周年記念行事（ちば共済会館） 記念講演「21世紀の環境と文明－環境に対する考え方－」 ㈱環境・文明研究所 加藤三郎氏
	10. 31	技術委員会WG成果発表会・第9回技術事例発表会 （ちば共済会館）
	11. 7	第24回親睦ゴルフ大会（市原ゴルフクラブ） 優勝 名取昭平氏（セイコーアイ・テクノリサーチ㈱）
11. 22	第112回理事会（ちば共済会館） パネルディスカッション・講演会（ちば共済会館）	

過去の技術事例発表テーマ

(技術委員会)

年度	発表のテーマ	社名	発表者
昭第 和 1 63 年回	水酸化イットリウム共沈分離法について DSCによる自己反応性物質の測定条件の検討 濾紙スポット・蛍光X線による生活排水中の全リンの迅速定量 沿道大気浮遊粉塵中のPAH及びニトロPAHと変異原活性について	住友金属鉱山 セイコーアイ・テクノロジー 川村理化学研究所 環境管理センター	塚原 様 奥山 様 和田 様 小林 様
平第 成 2 年回	ICPによる油中のV・Ni分析(標準法) ニッケルルツポによるクロム分析(底質)の問題点 ICP-MSによる超微量分析	出光興産 環境管理センター 住化分析センター	小峰 様 高橋 様 高橋 様
平第 成 3 2 年回	メタルフレームレス原子吸光法による高純度フッ酸中不純物の直接定量 高純度金属中微量塩素の定量方法 ICP-MSの真空紫外域発光線についての一考察 新規高分子物質の安全性試験について 分析室内空気汚染対策の一例(ガスクロマトグラフ法(ECD)による水質有機塩素化合物分析の場合)	セイコーアイ・テクノロジー 住友金属鉱山 中外テクノス 住化分析センター 永山環境科学研究所	坂部 様 戸田 様 斉藤 様 吉崎 様 永山 様
平第 成 4 3 年回	電気加熱黒鉛炉原子吸光法による水道水中の鉛の高感度直接定量 クリンルームエア中のアニオンの分析 サウジアラビア王国、ALカフジにおける大気環境汚染状況 トリクロロエチレン等の含有試験に用いる採取容器についての一事例	セイコーアイ・テクノロジー 住化分析センター 東京化学分析センター 環境管理センター	坂部 様 飯川 様 川岸 様 小笠原 様
平第 成 5 4 年回	騒音問題についての一考察(最近の事例から) 自動COD計の使用実施例 防塵対策のための分析事例 尿尿処理における水質分析の注意点 汚濁物質の堆積と溶出挙動について	中外テクノス 住化分析センター セイコーアイ・テクノロジー 浅野工事 浅野工事	長谷 様 大悟 様 法田 様 浜田 様 阿部 様 高梨 様
平第 成 6 5 年回	水素化物導入ICP質量分析法による微量ゲルマニウムの定量 揮発性有機化合物の測定について 天然水飲料の分析事例 汚染土壌の分析技術	住友金属鉱山 住化分析センター セイコーアイ・テクノロジー 住化分析センター	鶴田 様 吉池 様 川鍋 様 加藤 様
平第 成 7 6 年回	最新の蛍光X線分析装置による灰分成分の分析事例 鉛の原子吸光分析における分析方法の比較検討 ICP-MSによる超純水の微量金属分析 走査型プローブ顕微鏡による応用例の紹介	新日環境エンジニアリング 中外テクノス 住化分析センター セイコーアイ・テクノロジー	大塚 様 小林 様 渡邊 様 西岡 様
平第 成 8 7 年回	CID-ICPによる微量金属の分析 イオン交換分離濃縮・吸光光度法による排水中の鉛の簡易分析法 分析結果から自然を理解する 臭気官能試験の留意点について 石油中の硫黄、バナジウム、ニッケルの同時分析 全窒素分析(紫外線吸光光度法)におけるMnの影響について	新日環境エンジニアリング 住友金属鉱山 ダイワ 環境管理センター 出光興産 浅野工事	手島 様 菊池 様 小池 様 秦池 様 友池 様 高梨 様
平第 成 9 8 年回	ごみ埋立地浸出水処理水のCODMn分析について (高塩化物イオン含有試料の銀塩添加量) フローインジェクション法による環境水中のシアン、フッ素の定量 土壌汚染調査とオンサイト分析 都市ごみ焼却飛灰中の2元素の濃度レベルとその挙動	浅野工事 川鉄テクノロジー 住化分析センター 環境管理センター	富樫 様 鳥田 様 大悟 様 鳥貝 様

研修見学会実績

(企画委員会)

第回	年月日	研修見学先	対応者・内容等	参加者数
1	昭和 54.10.25	千葉県水質保全研究所 千葉県下水道管理事務所	第2水質研究室長 川島 信二氏 BOD測定法の諸問題について	24
2	昭和 55. 7. 1	千葉県公害研究所	所長 梶村 茂氏 他 県公害全研究所	34
3	昭和 55.10.24	千葉県水産試験場	公害研究室長 高橋 哲夫氏 県下の漁場と環境問題	20
4	昭和 56.10.24	新日本製鉄(株)君津製鉄所	日環協関東支部と共催	17
5	昭和 57.11. 2	千葉県水質保全研究所	技師 平間 幸雄氏 JIS K 0102 改正と問題点	27
6	昭和 58.11.16	キッコーマン(株) 本社工場	企画管理室長 杉本 洋氏 バイオテクノロジー	21
7	昭和 59.11.21	国立公害研究所 霞ヶ浦臨湖実験施設		15
8	昭和 60. 9.27	セイコー電子工業(株) 高塚事業所	主任 高橋 純一氏 ICP測定の自動化	26
9	昭和 61. 1.23	国立公害研究所 公害資源研究所	大気拡散風洞実験、 各種物理分析機器 水理モデル、活性汚泥	27
10	昭和 62. 1.26	住友化学工業(株) 千葉工場	総務部長 堤 碩氏	21
11	昭和 62. 9.25	川鉄テクノリサーチ(株) 千葉事業所	特別技術顧問 岸高 寿氏 原子ベクトロメトリーの系譜	21
12	昭和 63. 8.26	千葉県水産試験場(千倉)	アワビ、タイ等の養殖 石堂寺(丸山町) (バスの中で弁当)	20

第回	年 月 日	研修見学先	応対者・内容等	参加者数
13	平成元. 7. 1	(株)日立製作所 那珂工場 (勝田市)	顧問 酒井 馨氏 分析機器の製造過程 機器による環境分析	31
14	平成2. 7.24	千葉県内水面試験場	場長 田川 和幸氏 他 房絵のむら (大栄町)	34
15	平成3. 7.24	キッコーマン(株) 野田プラント 御用蔵	環境管理部長 茂木 義資氏 他 清水公園	32
16	平成4. 7.24	手賀沼、水の館	千葉県水保研 第3研究室長 本橋 敬之助氏 浄化施設ニッカウキスキー 手賀沼フィッシングセンター (鯉)	31
17	平成5. 7.16	(株)環境管理センター 環境基礎研究所 (八王子市)	社 長 水落 陽典氏 副社長 後藤 一郎氏 研究所長 橋葉 常雄氏 他	39
18	平成6. 7. 1	千葉県現代産業科学館 (市川市)	学芸課主任技師 池田 文彦氏 現代産業の歴史 柴又 帝釋天 (葛飾) コルトンプラザ	36
19	平成7. 7.13	千葉県中央防災センター 川村理化学研究所	川村理化/高田加奈子氏 国立歴史民族博物館	46
20	平成8. 7.24	中央防波堤廃棄物処理場 大田清掃工場 下水道局南部スラッジプラント	広報係長 岩崎 晃氏 (案内) 清掃局特定清掃事業所監理係長 松山 太郎氏 施設管理課長 山田 昭捷氏	26

技術講演会実績

(企画委員会)

年度	年月日	テーマ	講師
昭和62年度	昭和 62.11.26	用水、排水中の低分子量ハロゲン化炭化水素試験方法について	(株)環境管理センター 三村 秀一氏
昭和63年度	昭和 63.12. 2	化学物質分析技術の近況と今後の展望	島津製作所(株) 計測本部 技師長 坂田 衛氏
平成元年度	平成元年.10.27	①水質汚濁防止法の一部改正について ②トリクロロエチレン及び農薬分析上の問題点について	千葉県環境部 水質保全課 鐘田 功氏 千葉県水質保全研究所 中島 淳氏
平成2年度	平成 2.12. 4	EDS'-SEMの環境分析への対応	セイコー電子工業(株) 科学器機事業部 杉山 淳子氏
平成3年度	平成 3.12. 9	①千葉県における大気環境中の水銀濃度 ②四塩化炭素の分析方法と問題点の検討	千葉県公害研究所 第3研究室 押尾 敏夫氏 千葉県水質保全研究所 第1研究室 半野 勝正氏
平成4年度	平成 4.12. 2	新廃棄物処理法、法令関係の解説	千葉県環境部産業廃棄物課 課長補佐 内山 一郎氏
平成5年度	平成 5.11.19	新計量法及び計量証明事業の問題点	通産省通商産業検査所 化学部化学工業品課長 田坂 勝芳氏
平成6年度	平成 6.12. 8	①環境水分析法の比較検討 ②GC/MSによる環境基準及び要監視項目の測定	千葉県水質保全研究所 印旛沼・手賀沼浄化研究室 平間 幸雄氏 千葉県水質保全研究所 水質第3研究室 吉澤 正氏
平成7年度	平成 7.12. 8	高速液体クロマトグラフィーを用いた農薬の同時定量	千葉県水質保全研究所 主任研究員 藤本 千鶴氏
平成8年度	平成 8.11.22	有害大気汚染物質の分析技術	川崎市公害研究所 鈴木 茂氏

新春講演会実績

(総務委員会)

年度	年月日	テーマ	講師
昭和62年度	昭和63. 1.21	①アスベストの測定と諸問題 ②2000年の千葉県その展望とふるさと千葉環境プランについて	労働衛生検査センター測定分析室 今泉敬士郎氏 千葉県環境部環境調整課 計画係 牧野敬一氏
昭和63年度	平成元年 1.26	千葉県における環境アセスメントの実施状況とその特色	千葉県環境部環境調整課 金子弥四郎氏
平成元年度	平成2. 1.26	千葉県の環境の現状と対策	千葉県環境部環境調整課 喜多大次郎氏
平成2年度	平成3. 1.26	①小規模水道とその規制について ②農薬の分析等について	千葉県衛生部衛生指導課 環境衛生指導係 伊藤仁司氏 千葉県農業試験場 生産環境試験室 丸論氏
平成3年度	平成4. 1.23	①千葉県における環境行政について ②手賀沼における水環境と浄化	千葉県環境部環境調整課 環境政策室 久保木伸浩氏 千葉県水質保全研究所 本橋敬之助氏
平成4年度	平成5. 1.20	①ブラジルでの地球サミットの視察を終えて ②水質分析の公定法と原子スペクトル分析法	千葉県環境研究所 金子弥四郎氏 セイコー電子工業(株) 松原道夫氏
平成5年度	平成6. 1.27	①悪臭追加物質とその測定法について ②水質に係わる新基準等の環境行政の動向	環境庁大気保全局 特殊公害課臭気対策係 前川清三郎氏 千葉県環境部水質保全課 地下水汚染対策室 安藤純一氏
平成6年度	平成7. 1.30	①廃棄物情報センター技術開発の業務紹介と再生品使用時の安全性の考え方 ②環境監査の動向と監査手順	千葉県廃棄物情報センター 原雄氏 日本検査キューエイ(株) 斎藤喜孝氏
平成7年度	平成8. 1.30	①21世紀に向けた本県環境の長期構想について ②ISO14001と環境管理システムについて	千葉県環境部環境調整課 環境政策室 鈴木一男氏 (株)環境管理センター 岸田澄江氏

経営問題懇談会・調査開発WG活動実績

(経営問題懇談会)

年度	年 月 日	活 動 実 績
昭和 62 年度 第 1 回	昭和 63. 3.23	各会社相互間の信頼関係をより深くして、それぞれの問題点を出し合い協会の活発な活動に結びつける事を主旨として発足。会合名を「経営懇談会」とする。
昭和 63 年度 第 2 回	昭和 63.10. 7	「企業経営分析」をテーマに懇談 講 師：(株)住化分析センター 吉 岡 真 史
平成 元 年度 第 3 回	平成 2. 2.26	①「消費税に関する問題点」 導入後の影響並びに受注関連と社内対応について ②人材募集・確保 その現状と対策について
平成 2 年度 第 4 回	平成 3. 2. 6	教育・ローテーション・資格者確保・育成 環境計量士の資格者の育成 業務関連資格者確保の方策
平成 3 年度 第 5 回	平成 4. 2.14	人材育成の一貫としての「考課・評定・査定」についてフリーディスカッションによる討論・意見交換。
平成 4 年度 第 6 回	平成 5. 2.20	①検査・分析における人材確保と人材育成 (1)人材不足の実態と人材確保 (2)人材育成 ②検査・分析機器の高度化について (1)現有機器の採算性 (2)機器の高度化について等 最近の市場動向、環境計量における事業展開に対する意見交換。
平成 5 年度 第 7 回	平成 6. 2.18	千環協案内の配布担当グループの名称、活動の在り方等討論。 今後、顧客ニーズの吸い上げ、市場調査をして千環協の運営に反映。 新計量法に基づく事業規程等情報交換。 本年度から調査開発WG発足。 発足準備委員会（6月）、第1回（7月）第2回（9月）第3回（11月）。 テーマ選定：「顧客への最新技術情報の提供」「顧客ニーズ調査」。
平成 6 年度 第 8 回	平成 7. 2.20	「部下の動機付け」「部下とのコミュニケーション」のビデオ放映後討論。 調査開発 WG 「最新の環境情報」をニュース第 42号、43号、45号に掲載 「顧客ニーズ調査」アンケート調査実施 ニュース第 44号に掲載
平成 7 年度 第 9 回	平成 8. 2.28	「環境測定における安全性」をテーマに 東京都下水道局森ヶ崎水処理センター 南部スラッジプラント 山田様より講演

千葉県環境計量協会について

(略称：千環協)

I 設立趣旨

本会は、環境計量に関する技術の向上と、適正な環境計量の実施を確保することを目的として各種事業を実施し、併せて関係諸機関との連携を密にしつつ、千葉県の公害対策並びに環境保全に寄与することを目的として設立された団体であります。

II 設立及び構成

昭和51年6月25日に設立され、千葉県知事に環境計量証明事業の登録をした7事業所により発足、構成会員は平成6年6月現在、正会員57事業所となっております。

III 事業内容

当協会は、主として次の事業を実施しておりますが、その活動方法は全会員が五つの委員会のいずれかに所属し、全員参加ですすめております。

1. 総務委員会

- (1) 会員従業員を含むレクリエーション行事の開催
- (2) くらしと計量展への協賛

2. 業務委員会

- (1) 会員ガイドの発行（会員事業所毎の人員、設備、証明分野、業務実績の紹介）
- (2) 測定・分析料金の検討及び試算
- (3) 会員の事業実態の把握とまとめ

3. 技術委員会

- (1) クロスチェック分析の実施
- (2) 定量限界値の統一等の研究
- (3) 計量機器管理の検討
- (4) 騒音・振動測定技術の向上
- (5) 技術研究発表会の開催

4. 企画委員会

- (1) 研修見学会、講演会の開催
- (2) 実務者パネルディスカッションの開催

5. 広報委員会

- (1) 会報の発行
- (2) 各種情報の提供

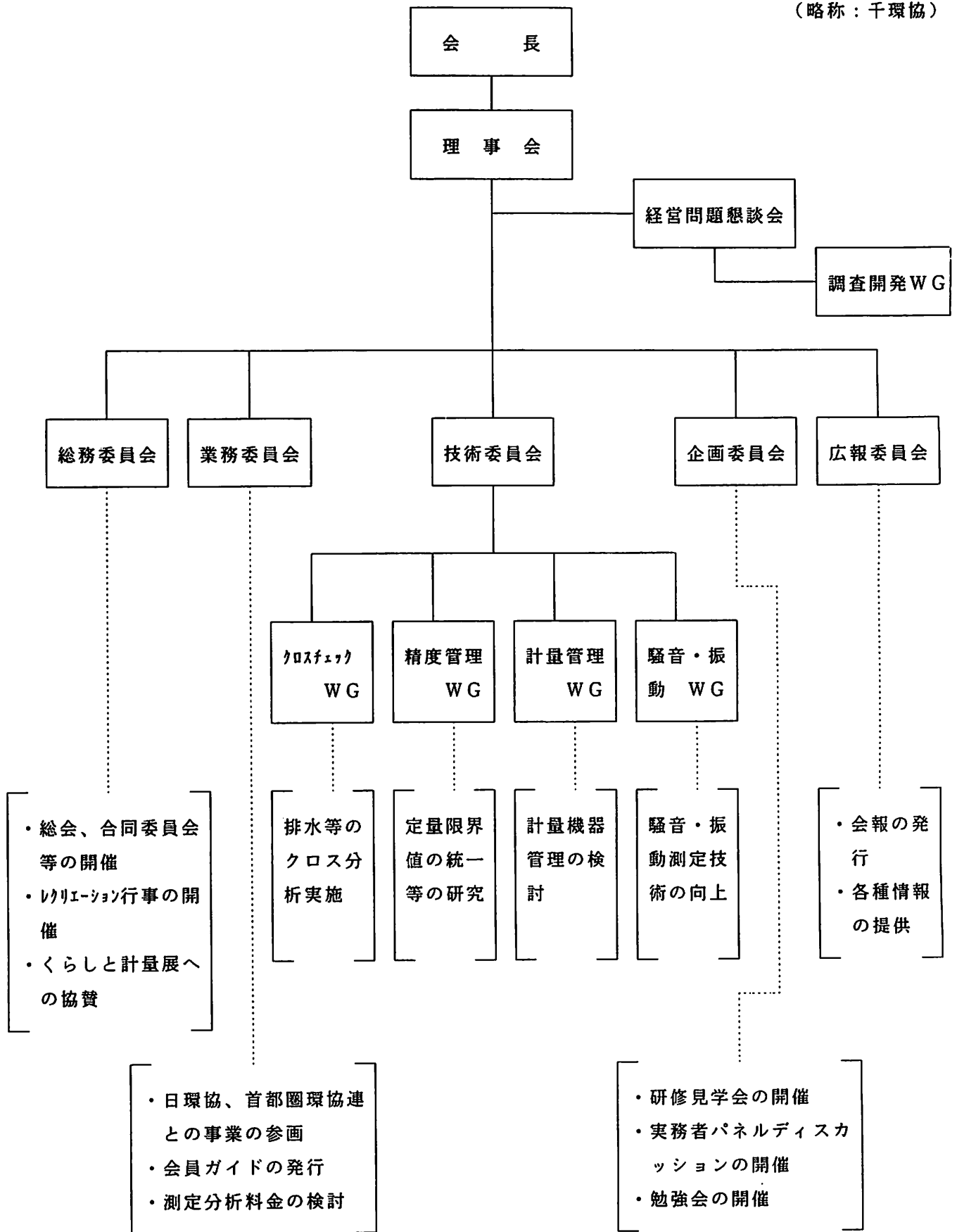
IV 中央団体との関係

社団法人 日本環境測定分析協会に加入、共済事業を実施するほか、各種事業に参加、及び新技術の情報提供を受けております。

また、近隣協議会（東京・神奈川・埼玉）とは、首都圏環境計量協議会連絡会を組織し、各種事業に参画しております。

千葉県環境計量協会の組織及び事業活動

(略称：千環協)



※全会員は各々いずれかの委員会に所属して協会の活動に参画している。

千葉県環境計量協会規約

第 1 章 総 則

(目 的)

第 1 条 本会は環境計量に関する技術の向上と、会員相互の親和と協調に努め、かつ関係諸機関との連繫を密にし、環境計量証明事業の正しい発展を図ることを目的とする。

(名 称)

第 2 条 本会は千葉県環境計量協会と称する。

(事 務 所)

第 3 条 本会は事務所を千葉県内におき、所要の職員をおくことが出来る。

(事 業)

第 4 条 本会は第 1 条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 環境計量証明事業の進歩改善に関すること
- (2) 環境計量技術の向上に関すること
- (3) 環境計量に関する教育・訓練・指導に関すること
- (4) 環境計量に関する情報、資料を収集し提供すること
- (5) 官公庁及び関連団体との連絡協調をはかること
- (6) その他目的を達成するために必要な事項

(会 員)

第 5 条 本会の会員は、正会員、賛助会員により構成する。

2. 正会員は千葉県に登録した濃度、音圧レベル、振動加速度レベルに係る計量証明事業者で、本会の趣旨に賛同する法人とする。
3. 賛助会員は、前項以外で本会の目的、事業に賛同する法人とする。

(入 会)

第 6 条 入会を希望するものは、所定の申込書を本会に提出し、理事会の承認を得なければならない。

(退 会)

第 7 条 会員が本会を退会しようとするときは、事前に文書をもって本会に届出なければならない。

2. 会員が次の事由のいずれかに該当する場合は、理事会の決定により本会を退会するものとする。
 - (1) 本会の目的に反する行為をしたとき
 - (2) 著しく本会の名誉を毀損したとき
 - (3) 著しく会費を滞納したとき

(入会金及び会費)

第 8 条 会員は、別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

第 2 章 役 員

(役 員)

第 9 条 本会に次の役員をおく。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 3名以内
- (3) 理 事 若干名
- (4) 監 事 2名

(役員を選出)

第 10 条 理事及び監事は総会において正会員中より選出する。

(役員の仕事)

第 11 条 会長は会を代表して会の業務を統括する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。
3. 理事は業務の円滑な運営にあたる。
4. 監事は会計を監査する。

(役員の仕事)

第 12 条 役員の仕事は2年とする。ただし再任を妨げない。

2. 役員に欠員が生じたときはこれを補充するものとし、補充によって選出された役員の仕事は前任者の残任期間とする。

(顧 問)

第 13 条 本会に顧問をおくことができる。顧問は理事会において推薦した者を会長が委嘱する。

2. 顧問は本会の運営又は事業会務につき、会長の諮問に応ずる。
3. 顧問の仕事は、役員の仕事に準ずる。

第 3 章 会 議

(会 議)

第 14 条 会議は総会及び理事会とする。また必要に応じて専門委員会を設けることができる。

(総会の開催)

第 15 条 総会は通常総会と臨時総会とし、通常総会は毎年1回以上開催する。

臨時総会は会長が必要と認めたとき開催する。ただし会員の3分の1以上から要請があった場合は総会を開催しなければならない。

(総会の成立)

第 16 条 総会は正会員の2分の1以上の出席により成立する。ただし委任状を提出したものは出席者とみなす。

第 17 条 総会の議事は出席正会員の過半数で決する。可否同数のときは議長の決するところによる。

(議 長)

第 18 条 総会の議長は会長がこれにあたる。

(総会の議決事項)

第 19 条 総会は次の事項を議決する。

- (1) 事業計画及び収支決算
- (2) 事業報告及び収支決算
- (3) 規約の変更
- (4) その他理事会において必要と認めた事項

(理事会の開催と議事)

第 20 条 理事会は会長が必要と認めたときに開催し、規約に定めてある事項のほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会の議決した事項の執行に関すること
 - (2) 総会に付議すべきこと
 - (3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関すること
2. 理事会は理事の 2 分の 1 以上の出席により成立する。
 3. 理事会の議事は出席理事の過半数で決する。
 4. 理事会の議長は会長がこれにあたる。

第 4 章 資産会計等

(経 費)

第 21 条 本会の経費は会費その他の収入をもって充当する。

2. 入会金、会費については理事会の議を経て総会で決定する。また必要ある場合は臨時会費を徴収することができる。既納の入会金、会費は返戻しない。

(資産の管理)

第 22 条 本会の資産の管理及び運用に関して必要な事項は理事会において別に定める。

(事業年度)

第 23 条 本会の事業年度は毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

(予算及び決算)

第 24 条 本会の収支予算及び決算は理事会の同意を得て会長が作成し、決算については監事の監査を受けた後、ともに総会の議決を得なければならない。

第 5 章 雑 則

(解 散)

第 25 条 本会は理事の 3 分の 2 以上の同意を得、総会において正会員の 3 分の 2 以上の賛成により議決した場合は解散する。

(施行細則)

第 26 条 この規約の施行についての細則は理事会において別に定める。

附 則

この規約の改正は平成 6 年 4 月 28 日から施行する。

現 理 事



会 長
中 村 豊
中外テクノス(株)関東営業所



副会長
野 村 罔 夫
キッコーマン(株)分析センター



副会長
名 取 昭 平
セイコーアイ・テクノリサーチ(株)



総務委員長
小 石 想 一
川鉄テクノリサーチ(株)千葉事業所



業務委員長
青 木 鉄 雄
(株)環境管理センター東関東支社



企画委員長
大 北 哲
(株)新日化環境エンジニアリング君津事業所



技術委員長
山 田 秀 昭
(株)住化分析センター千葉事業所



広報委員長
菅 谷 光 夫
(株)ダイワ千葉支店

歴 代 理 事

初 代 会 長
副 会 長
2 代 会 長
副 会 長
3 代 会 長
副 会 長
4 代 会 長
副 会 長
5 代 会 長
副 会 長
6 代 会 長
副 会 長
7 代 会 長
副 理 事

前森永栗須藤竹後鈴小松茂加北高松遠佐赤久猿和
 磨 々
 沢本山山崎平内藤木谷友木藤原橋尾藤木津末渡田
 辰長瑞晃一泰五一幸幸信義元成直大正 一 素重
 太 雄正男郎治万郎郎夫則寿資彦之行巴弘勇衛浩矩美

理 事
 ♪
 ♪
 ♪
 ♪
 ♪
 ♪
 ♪
 ♪
 ♪
 ♪

上森宮大尾平村下近岡山高佐有平
 野永本坪花野石野藤崎内梨木馬野
 良幸 光貞保勝輝喜成英正正富安
 代
 一吉肇作美昭良美太美二夫夫穂之

会 員 名 簿

会 員 名	連 絡 場 所	連 絡 担 当 者	事 業 区 分					備 考
			濃 度			証	種 別	
			塩	類	地			
浅野工事(株) 環境技術研究所 代表取締役社長 雑賀 俊一	千葉市中央区都町 1-49-2 〒260 TEL 043-234-8628 FAX 043-234-8629	阿部 竜也		○				
旭硝子(株) 千葉工場 工場長 小西 健二	市原市五井海岸 10 〒290 TEL 0436-23-3150 FAX 0436-23-3126	安全環境保安室 渋谷 英世	○	○	○			
(株) 飯塚 環境技術研究所 代表取締役 飯塚 貴之	松戸市紙敷 599 〒271 TEL 0473-91-1156 FAX 0473-91-0110	環境技術研究所 所長 大坪 光作	○	○	○			
イカリ消毒(株) 技術研究所 代表取締役社長 黒沢 聡樹	千葉市中央区千葉寺町 579 〒260 TEL 043-264-0126 FAX 043-261-0791	環境科学センター 清水 隆行	○	○	○			
出光興産(株) 千葉製油所 取締役所長 杉山 實	市原市姉崎海岸 2-1 〒299-01 TEL 0436-61-1215 FAX 0436-61-1511	品質管理課 岡崎 成美	○	○	○			
(株) 荏原製作所 薬品技術センター 工場長 古田 稔	袖ヶ浦市中袖 35 〒299-02 TEL 0438-63-8700 FAX 0438-60-1711	主任 木村 仁		○	○			
(株) オートテック 研究センター 代表取締役専務・所長 古田 力久	佐倉市大作 2-4-2 〒285 TEL 043-498-3912 FAX 043-498-3919	畑堀 尚生	○	○	○			
(株) 上総環境調査センター 代表取締役 浜田 康雄	木更津市潮見 4-16-2 〒292 TEL 0438-36-5001 FAX 0438-36-5073	分析課長 草場 裕滋	○	○	○	○	○	
川鉄テクノリサーチ(株) 分析・評価センター 千葉事業所 取締役所長 小石 想一	千葉市中央区川崎町 1 〒260 TEL 043-262-2313 FAX 043-266-7220	主任 岡野 隆志	○	○	○	○		理事 (兼務)
(株) 川村理化学研究所 理事長 高橋 武光	佐倉市坂戸 631 〒285 TEL 043-498-2111 FAX 043-498-2229 隣 2210	分析研究室 高田加奈子		○	○			
環境エンジニアリング(株) 君津支店 取締役支店長 伊佐 隆善	木更津市畑沢 1-1-51 環境センター 〒292 TEL 0438-36-5911 FAX 0438-36-5914	部長代理 川崎 孝則	○	○	○	○	○	
(株) 環境エンジニアリング 千葉支店 支店長 金子 正昭	市川市田尻 3-4-1 〒272 TEL 0473-70-2561 FAX 0473-70-3050	支店長 金子 正昭	○	○	○	※	※	

※：県外事業所登録

会 員 名	連 絡 場 所	連 絡 担 当 者	事 業 区 分					備 考
			濃 度			証	種	
			燻	煙	埃			
(株) 環 境 管 理 セ ン タ ー 東 関 東 支 社 支 社 長 青 木 鉄 雄	千 葉 市 中 央 区 稲 荷 町 71 〒 260 TEL 043-261-1100 FAX 043-265-2412	支 社 長 青 木 鉄 雄	○	○	○	○	○	理 事 (業 務)
(株) 環 境 コ ン ト ロ ー ル セ ン タ ー 代 表 取 締 役 社 長 松 尾 大 邑	千 葉 市 中 央 区 宮 崎 町 180-4 〒 260 TEL 043-265-2261 FAX 043-261-0402	環 境 課 永 友 康 浩	○	○	○			
(株) 環 境 測 定 セ ン タ ー 代 表 取 締 役 社 長 小 野 博 利	千 葉 市 花 見 川 区 検 見 川 町 3 丁 目 316 番 地 25 〒 262 TEL 043-274-1031 FAX 043-274-1032	代 表 取 締 役 社 長 小 野 博 利	○	○				
キ ッ コ ー マ ン (株) 分 析 セ ン タ ー 分 析 セ ン タ ー 長 野 村 罔 夫	野 田 市 野 田 350 〒 278 TEL 0471-23-5080 FAX 0471-23-5188	分 析 セ ン タ ー 長 野 村 罔 夫	○	○	○	○	○	副 会 長
(有) 君 津 清 掃 設 備 工 業 濃 度 計 量 証 明 事 業 所 取 締 役 社 長 松 尾 国 昭	袖 ヶ 浦 市 横 田 3954 〒 299-02 TEL 0438-75-3194 FAX 0438-75-7029	嘉 数 良 規		○				
共 立 エ ン ジ ニ ア リ ン グ (株) 総 合 環 境 セ ン タ ー 代 表 取 締 役 田 中 敏	千 葉 市 稲 毛 区 弥 生 町 4-37 〒 263 TEL 043-285-1947 FAX 043-285-1949	今 吉 晋 吉	○	○	○	○	○	
京 葉 ガ ス (株) 常 務 取 締 役 半 田 憲 治	市 川 市 市 川 南 2-8-8 〒 272 TEL 0473-25-3360 FAX 0473-26-1759	水 野 寛 之		○	○			
(株) ケ ミ コ ー ト 代 表 取 締 役 社 長 井 坂 晃	浦 安 市 北 栄 4-15-10 〒 279 TEL 0473-52-1131 FAX 0473-52-1139	所 長 代 田 和 宏		○				
(株) 建 設 技 術 研 究 所 東 京 支 社 応 用 理 学 部 部 長 山 下 佳 彦	柏 市 明 原 1-2-6 〒 277 TEL 0471-44-3106 FAX 0471-43-2572	部 長 山 下 佳 彦		○	○			
公 害 計 器 サ ー ビ ス (株) 代 表 取 締 役 社 長 佐 藤 政 雄	市 原 市 出 津 7-8 〒 290 TEL 0436-21-4871 FAX 0436-22-1617	専 務 取 締 役 佐 藤 政 敏	○	○				
(株) 三 造 試 験 セ ン タ ー 東 部 事 業 所 取 締 役 所 長 久 米 範 佳	市 原 市 八 幡 海 岸 通 1 〒 290 TEL 0436-43-8931 FAX 0436-41-1256	試 験 検 査 部 長 脇 坂 勇	○	○	○			
(株) サ ン 分 析 セ ン タ ー 取 締 役 千 葉 分 析 部 長 辰 巳 鉄 次 郎	市 原 市 千 種 海 岸 3 〒 299-01 TEL 0436-62-9490 FAX 0436-62-8294	千 葉 分 析 部 石 井 憲 一	○	○	○			

会 員 名	連 絡 場 所	連 絡 担 当 者	事 業 区 分					備 考
			濃 度			証	種 別	
			燻	燻	燻			
(株)CTIサイエンスシステム 開発事業部 水質試験センター 代表取締役社長 斉藤 秀晴	柏市明原1-2-6 ヤマニビル 〒277 TEL 0471-47-4830 FAX 0471-47-4891	水質試験センター 濱田 隆治		○	○			
(株)ジオソフト 代表取締役社長 鈴木 民夫	千葉市美浜区磯辺 1-16-1 〒261 TEL 043-248-5378 FAX 043-248-0478	代表取締役社長 鈴木 民夫				○		
習和産業(株) 代表取締役 柴田勝次郎	習志野市東習志野 7-1-1 〒275 TEL 0474-77-5300 FAX 0474-93-0982	環境管理センター 課長 津上 昌平	○	○	○	○	○	
昭和電工(株) 千葉事業所 所長 三田村 良太	市原市八幡海岸通 3 〒290 TEL 0436-41-5111 FAX 0436-41-3972	品質保証課 課長 井川 洋志	○	○	○			
神鋼杉田製線(株) 代表取締役社長 杉田 光治	市川市二俣新町 17 〒272 TEL 0473-27-4517 FAX 0473-28-6260	分析室長 佐々木昭平		○	○			
(財)新東京国際空港振興協会 理事長 松井 和治	成田市東三里塚字中之台 118 〒286-01 TEL 0476-32-7625 FAX 0476-32-6726	調査事業課 課長 篠原 直明				○		
(株)新日化環境エンジニアリング 君津事業所 所長 藤間 正博	木更津市新港 15-1 〒292 TEL 0438-36-6040 FAX 0438-36-2901	分析第二部長 大北 哲	○	○	○			理事 (企画)
(株)住化分析センター 千葉事業所 取締役所長 青柳 正也	市原市姉崎海岸 131 〒299-01 TEL 0436-61-9030 FAX 0436-61-2122	第一営業部 小松原淳一 伊藤 浩征	○	○	○			理事 (技術)
住友金属鉱山(株) 中央研究所 所長 千野 健一	市川市中国分 3-18-5 〒272 TEL 0473-74-1191 FAX 0473-71-3085	分析センター 塚原 涼一		○	○			
住友大阪セメント(株) 環境技術センター 所長 五十畑 達夫	船橋市豊富町 585 〒274 TEL 0474-57-0751 FAX 0474-57-7871	所長 五十畑 達夫		○	○	○		
セイコーアイ・テクノロジー(株) 代表取締役社長 名取 昭平	松戸市高塚新田 563 〒271 TEL 0473-91-2298 FAX 0473-92-3238	代表取締役社長 名取 昭平	○	○	○			副会長
(株)総合環境分析研究所 代表取締役 高野 俊之	松戸市樋野口 616 〒271 TEL 0473-63-4985 FAX 同上	代表取締役 高野 俊之	○	○	○			

会 員 名	連 絡 場 所	連 絡 担 当 者	事 業 区 分					備 考
			濃 度			証	種 別	
			燐	硝	窒			
(株) ダ イ ワ 千葉支店 取締役支店長 菅谷 光夫	東金市家徳 238-3 〒 283 TEL 0475-58-5221 FAX 0475-58-5415	支店長 菅谷 光夫	○	○	○	※	※	理 事 (注 報)
妙 中 鉦 業 (株) 総合分析センター 代表取締役社長 妙中 寛治	茂原市大芝 452 〒 297 TEL 0475-24-0140 FAX 0475-23-6405	室 長 金井 弘和	○	○	○			
(財)千葉県環境技術センター 理 事 長 井上 富夫	市原市五井南海岸 3 〒 290 TEL 0436-23-2618 FAX 0436-23-1031	石山 博哉		○	○			
(社)千葉県浄化槽協会 理 事 長 半田 幸三	千葉市中央区中央港 1-11-1 〒 260 TEL 043-246-2355 FAX 043-248-6524	水質検査室長 鈴木 幸治		○				
中 外 テ ク ノ ス (株) 関東営業所 所 長 中村 豊	千葉市緑区大野台 2-2-16 〒 267 TEL 043-295-1101 FAX 043-295-1110	営業課 鈴木 信久	○	○	○	○	○	会 長
月 島 機 械 (株) 研 究 所 代表取締役社長 黒板 行二	市川市塩浜 1-12 〒 272-01 TEL 0473-59-1653 FAX 0473-59-1663	試験課 須山 英敏	○	○	○			
(株)東京化学分析センター 代表取締役社長 森本 長正	市原市玉前西 2-1-52 〒 290 TEL 0436-21-1441 FAX 0436-21-5999	技術営業部長 川岸 決男	○	○	○			監 事
東 京 公 害 防 止 (株) 代表取締役社長 小野 次男	東京都千代田区神田和泉町 広瀬ビル 3F 1-10-1 〒 101 TEL 03-3851-1923 FAX 03-3866-7483	代表取締役社長 小野 次男	○	○	○			
東 京 道 路 エ ン ジ ニ ア (株) 代表取締役社長 戸谷 是公	東京都文京区湯島 3-1-3 MHビル 〒 113 TEL 03-3834-0851 FAX 03-3834-7112	環境技術課長 鈴木 倫二	○	○		※	※	
東 洋 テ ク ノ (株) 環境分析センター 代表取締役社長 久保田 隆	山武郡松尾町田越 328-1 〒 289-15 TEL 0479-86-6636 FAX 0479-86-6624	代表取締役社長 久保田 隆	○	○	○			
(株)永山環境科学研究所 代表取締役社長 永山 瑞男	鎌ヶ谷市南初富 1-8-36 〒 273-01 TEL 0474-45-7277 FAX 0474-45-7280	環境計量士 永山 瑞男	○	○	○	○	○	
ニ ッ カ ウ 年 ス キ ー (株) 生産技術研究所 分析センター 取締役所長 宇野 正紘	柏市増尾字松山 967 〒 277 TEL 0471-72-5472 FAX 0471-75-0290	センター室長 橋本 昭洋		○	○			

※：県外事業所登録

会 員 名	連 絡 場 所	連 絡 担 当 者	事 業 区 分					備 考
			濃 度			証	種 別	
			燐	硝	窒			
日 本 軽 金 属 (株) 船橋分析センター センター長 伊 東 俊 夫	船橋市習志野 4-12-2 〒 274 TEL 0474-77-7646 FAX 0474-78-2437	坂 卷 博	○	○	○			
日 建 環 境 テ ク ノ ス 株 式 会 社 代表取締役 津 島 眞 之 介	船橋市山手 1-1-1 〒 273 TEL 0474-35-5061 FAX 0474-35-5062	釜 本 信 弘		○				監 事
日 廣 産 業 (株) 環境技術センター 代表取締役社長 田 中 馨 典	千葉市中央区川崎町 1 〒 260 TEL 043-266-8041 FAX 043-262-4340	池 田 茂 夫		○				
(社) 日 本 工 業 用 水 協 会 水質分析センター 所 長 岩 崎 岩 次	市川市南八幡 2-23-1 〒 272 TEL 0473-78-4560 FAX 0473-78-4573	主任技師 川 島 範 男		○	○			
日 本 廃 水 技 研 (株) 千葉支店 代表取締役社長 荒 西 寿 美 男	市川市相之川 2-1-21 〒 272-01 TEL 0473-58-6016 FAX 0473-57-6936	斎 藤 充		○	○			
(財) 日 本 分 析 セ ン タ ー 会 長 不 破 敬 一 郎	千葉市稲毛区山王町 295-3 〒 263 TEL 043-423-5325 FAX 043-424-8660	分析業務課 今 沢 良 章	○	○	○			
東 関 東 道 路 エ ン ジ ニ ア (株) 代表取締役社長 宮 本 潔	東京都荒川区東日暮里 5-7-18 コスモパークビル 2 F 〒 116 TEL 03-3805-7925 FAX 03-3805-7902	調査設計第一部 森 田 浩	○			※	※	
日 立 プ ラ ン ト 建 設 サ ー ビ ス (株) 環境技術センタ センタ長 岩 井 雅	松戸市上本郷 537 〒 271 TEL 0473-65-3840 FAX 0473-67-6921	環境技術センタ 岩 井 雅		○	○			
房 総 フ ァ イ ン (株) 代表取締役社長 榑 原 崇 夫	茂原市東郷 1900-1 三井東圧化学(株)内 〒 297 TEL 0475-22-2097 FAX 0475-22-4565	環境事業部 富 田 陽 美	○	○	○			
(有) ユ ー ベ ッ ク 代表取締役社長 飯 塚 嘉 久	木更津市久津間 613 〒 292 TEL 0438-41-7878 FAX 0438-41-7878	代表取締役社長 飯 塚 嘉 久	○	○	○			
ヨ シ ザ ワ L A (株) 環境分析センター 代表取締役社長 下 杉 善 胡	柏市新十余二 17-1 〒 277 TEL 0471-31-4122 FAX 0471-31-0506	小 川 原 正 夫	○	○	○			

※：県外事業所登録

広 告

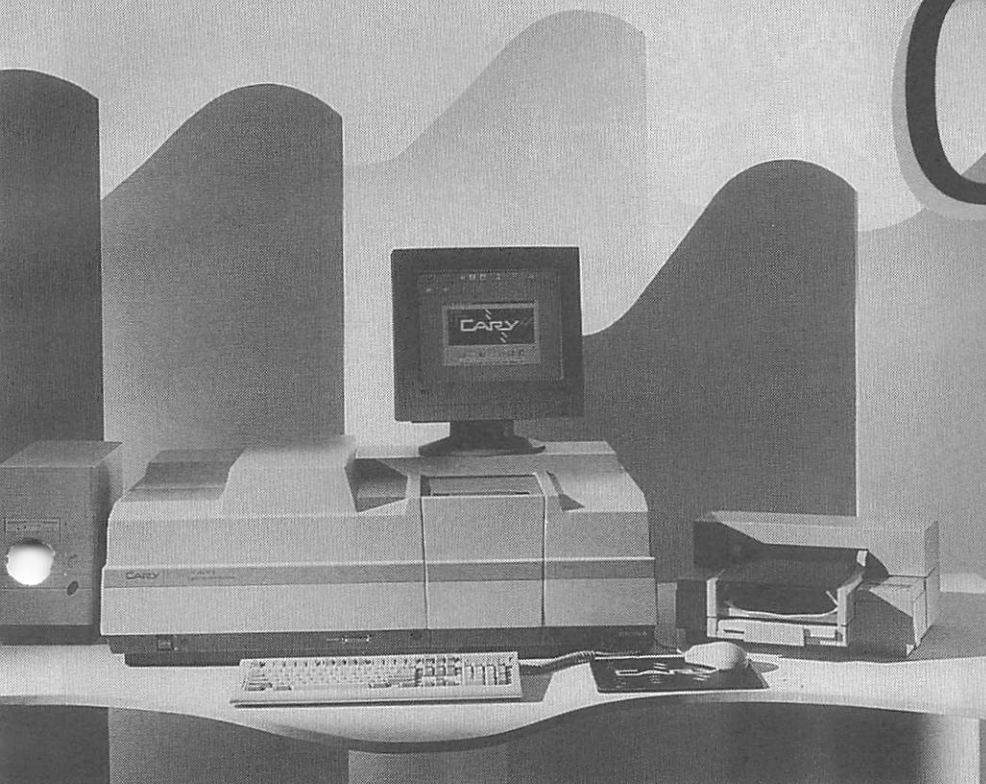
このたび当協会創立20周年にあたり記念特集号の発行に際しまして日頃お世話になっている各社より広告のご賛同をいただきました。

ここに、ご紹介いたしますと共にお礼申し上げます。

社 名	掲載ページ (順不同)
-----	-------------

varian 紫外・可視・近赤外分光光度計
シーケンシャルICP発光分光分析装置

CARY



CARY

紫外/可視/近赤外分光光度計

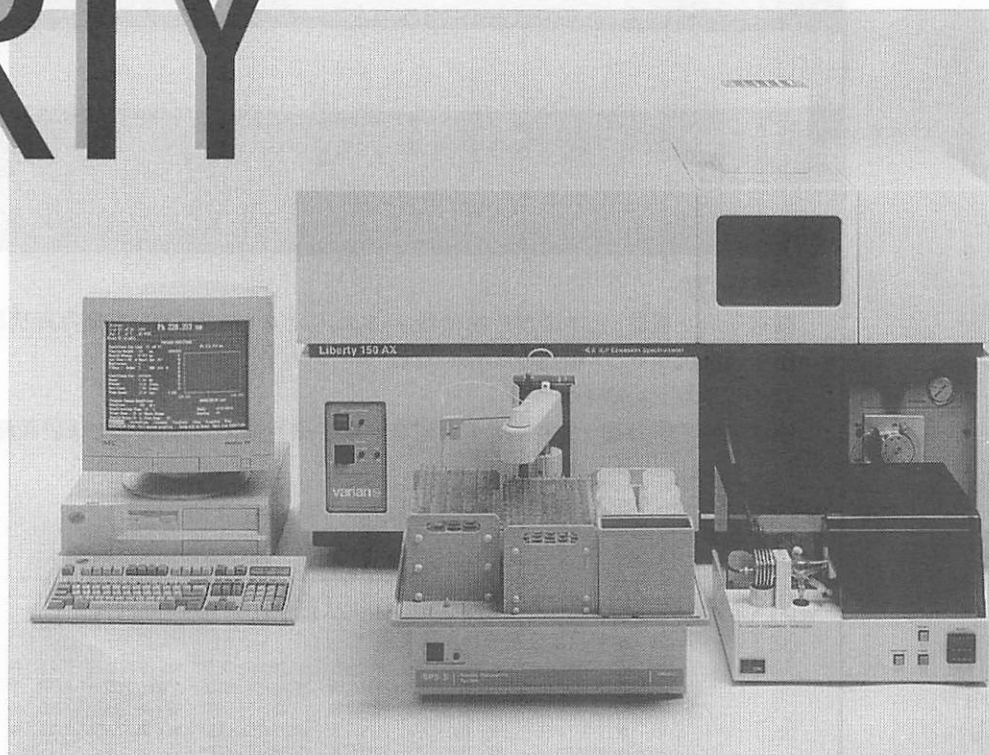
- ① 迷光が少なく(<0.00008%)高精度。検量線の直線性に優れています。
- ② 波長域が広く、短波長域での測定精度に優れています。
- ③ ベースラインノイズを極限まで少なくしています。
- ④ スキャンスピードをアップしても優れた精度を保ちます。
(UV/Vis<1-2000nm/min)
(NIR<1-8000nm/min)
- ⑤ ダブルモノクロメーター採用の為、波長精度に優れています。(±0.1nm UV-Vis)

LIBERTY

LIBERTY 150AX TURBO

シーケンシャルICP発光分光分析装置

バリアンシーケンシャル型ICPは高分解能、高感度、高精度省エネタイプの無機元素分解装置です。大型ホログラフィックグレーティングを採用した分光器は、逆光が少なく反射効率が高い設計です。分解能は、4次線で0.006nmです。検出限界 /As 0.6ppb、Cd 0.04ppb、Cu 0.03ppb、Pb 0.2ppb (USN使用時)



varian  **バリアン ジャパン リミテッド**

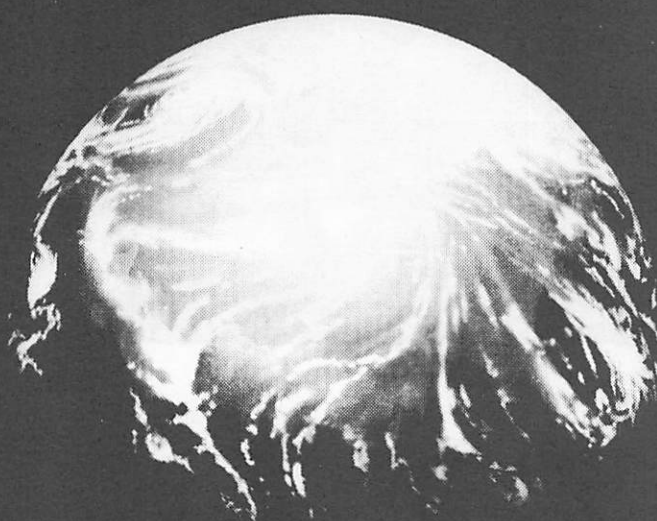
日本支社/ラボ 〒108 東京都港区芝浦4-16-36住友芝浦ビル
TEL 03(5232)1239/FAX 03(5232)1264

大阪営業所 〒532 大阪市淀川区西中島4-2-26 天神第一ビル
TEL 06(305)6552/FAX 06(305)6556

夢の実現、 “レンタル”でサポート。

美しい地球は人類の夢。

より良い地球環境を確保するために、
オリックス・レンテックは、様々な環境測定機器の
“レンタル”を通してサポートいたします。



〈事業内容〉

■電子測定機器、化学環境分析機器、パソコンなどのレンタル及び在庫品販売 ■計測受託サービス ■EMC測定サービス
■校正受託サービス ■技術サポートなど

〈レンタル取扱い機器一例〉

■環境測定機器 ■ラボ用分析機器 ■電子測定機器 ■マイコン開発支援装置 ■パソコンワークステーション



ORIX

オリックス・レンテック株式会社

本社：〒141 東京都品川区北品川5-7-21

東 京 03-3473-7511	札 幌 011-221-0651	秋 田 0188-64-3921	仙 台 022-224-3516	郡 山 0249-21-6003	水 戸 029-227-4471	宇 都 宮 028-625-9441
03-3473-7521	熊 谷 0485-24-2241	大 宮 048-646-0135	柏 0471-47-8011	千 葉 043-222-7911	西 東 京 0425-22-0791	町 田 0427-99-0444
川 崎 044-422-8861	横 浜 045-441-4831	厚 木 0462-25-7711	長 野 0263-35-3351	静 岡 0559-52-0300	浜 松 053-454-9922	名 古 屋 052-202-0450
三 重 0592-24-5525	北 陸 0762-61-7671	京 都 075-255-5851	大 阪 06-543-3461	神 戸 078-796-0661	姫 路 0792-88-1777	広 島 082-227-2641
北九州 093-522-0811	福 岡 092-472-7937	長 崎 0958-23-6880				

海外ネットワーク ORIX Rentec (Singapore) Pte.Ltd. TEL:65-745-4515 Korea Rental Corporation TEL:82-554-9696

●インターネット情報提供中 <http://www.mediagalaxy.co.jp/orixrentec/> ●NIFTY-Serveオンラインショッピング 'GO ORIX'



“はかる・知る・考える”



ISO9002認証取得
本社・技術センター

テクノレントはあらゆるシーンで進化し続けます。

RENTAL

SALE & RE-SALE

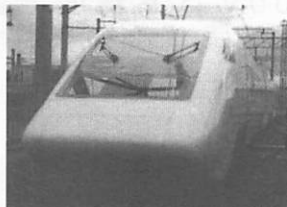
TECHNICAL SERVICE

KNOWLEDGE & INFORMATION

計測技術サービス

レンタルで培った計測ノウハウは“人と組織”に蓄積されます。テクノレントでは、この“人と組織、そこに蓄積されたノウハウ”をもってお客さまのニーズにお応えする技術サービス事業を構築していきます。

■次世代新幹線現車車上試験



主な計測内容

各種計測の測定・収録・解析

- ・振動測定：変位、速度、加速度、騒音
- ・応力測定：応力、荷重、歪、変位
- ・流量測定：流量、圧力
- ・物理検層：地下鉄、温泉の地質調査
- ・保守点検：移動体通信基地局の保守点検

■世界最新鋭の検層システム（ロバートソン社製）を搭載した検層車



三井物産グループ

テクノレント 株式会社

〒140 東京都品川区勝島1-5-21 東神ビル5F

本社 TEL:03-5762-3311 西東京 TEL:0425-21-0231
大阪 TEL:06-305-0811 つくば TEL:0298-55-8558
名古屋 TEL:052-961-0811 日立 TEL:0294-24-5002
神奈川 TEL:044-822-0445 技術 TEL:03-5471-6910

業 務 内 容

- ◆ 分 析 用 試 薬
- ◆ 分 析 用 総 合 機 器
- ◆ 排 水 処 理 用 薬 品
- ◆ 工 業 薬 品 全 般

和光純薬工業(株)代理店

金剛薬品株式会社千葉営業所

〒261 千葉市美浜区真砂 2-24-12

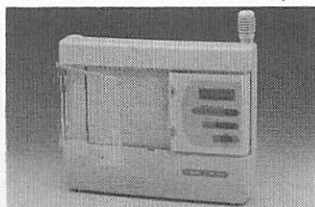
TEL 043 (277) 3 2 1 1 (代)

手軽で確実な温湿度測定。

ST-100V は高精度で温湿度を測定し、長期間の記録が残せる簡単操作の温湿度記録計です。

温湿度記録計 ST-100V

- 主な仕様
- ・センサ方式 温度 半導体センサ
湿度 高分子電気抵抗式センサ
- ・測定範囲 -10 ~ 50℃
0 ~ 100% RH
- ・表示精度 ±0.5℃
±3% RH(25℃)
- ・記録紙送り速度 2.5 - 5 - 15 mm/h(3速)



- 用途例
- ・実験試験室の温湿度測定記録
- ・建物空調、住環境の温湿度測定記録
- ・オフィス、コンピュータールームの温湿度測定記録
- ・屋外気象環境の温湿度測定記録

高精度、長耐久性のセンサ

電子式センサの使用により高精度で長期間安定した測定を実現しました。湿度センサは無調整で簡単に交換ができます。

長期の記録

記録紙上に最長6ヶ月間の記録が残せます。また時間軸の幅が広い記録紙ですので温湿度変化が時間単位で読みとれます。

測定場所を選ばない電池駆動

電源は乾電池とACアダプタが使用できますのでさまざまな場所に設置できます。電池駆動時には最長6ヶ月間の連続測定ができます。

遠隔測定に対応

別売延長ケーブルにてセンサ部を最長50mまで引き延ばしができますので、狭い空間の測定や離れた場所の測定などに便利です。

株式会社セコニック販売店

〒260 千葉市中央区今井 2-14-13 布施第2ビル 207

竹田理化工業(株)千葉支店

電話 043-268-9151 (代表) FAX 043-268-9159

20周年おめでとうございます。

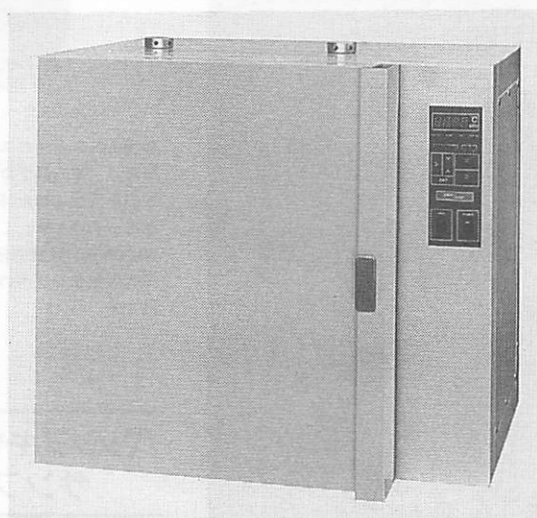
乾燥器

18-0504
乾熱滅菌器兼用型

マイコン制御・卓上型乾燥器

3パターン/温度・時間組合わせ/記憶

温度と時間の組み合わせで3種類のパターンを記憶できます。
各パターンでオートストップまたはオートスタートの設定ができます。
デジタルPID方式の温度調節で調節精度は±0.5℃です。



温度範囲	50～230℃
温度調節	PID方式 温度・時間3パターン
安全装置	過昇温防止機構 センサー断線警報 ブレーカースイッチ
時間範囲	0～99時間59分
内 槽	SUS-304
外 装	鋼板焼付塗装
電 源	AC 100V

型式	自然対流式 (ファンなし)			送風式 (ファン付)			
	IH-35	IH-45	IH-60	IHF-35	IHF-45	IHF-60	
内寸法	W	300mm	400mm	500mm	300mm	400mm	500mm
	D	300	400	500	300	400	500
	H	350	450	600	350	450	600
ヒーター	0.6kW	1.0kW	1.5kW	0.6kW	1.0kW	1.5kW	
モーター	—	—	—	15W	15W	30W	
価格	¥ 213,000-	¥ 255,000-	¥ 310,000-	¥ 250,000-	¥ 275,000-	¥ 345,000-	

* 乾燥器・滅菌器は各用途に合わせ大型品など各種取り揃えてあります。

R.K.I 池本理化工業株式会社

〒113 東京都文京区本郷 3-25-11

☎ 03 (3811) 4181

FAX 03 (3814) 1960

理化学機器・科学・医学・研究設備、組織・細胞・植物培養機械器具

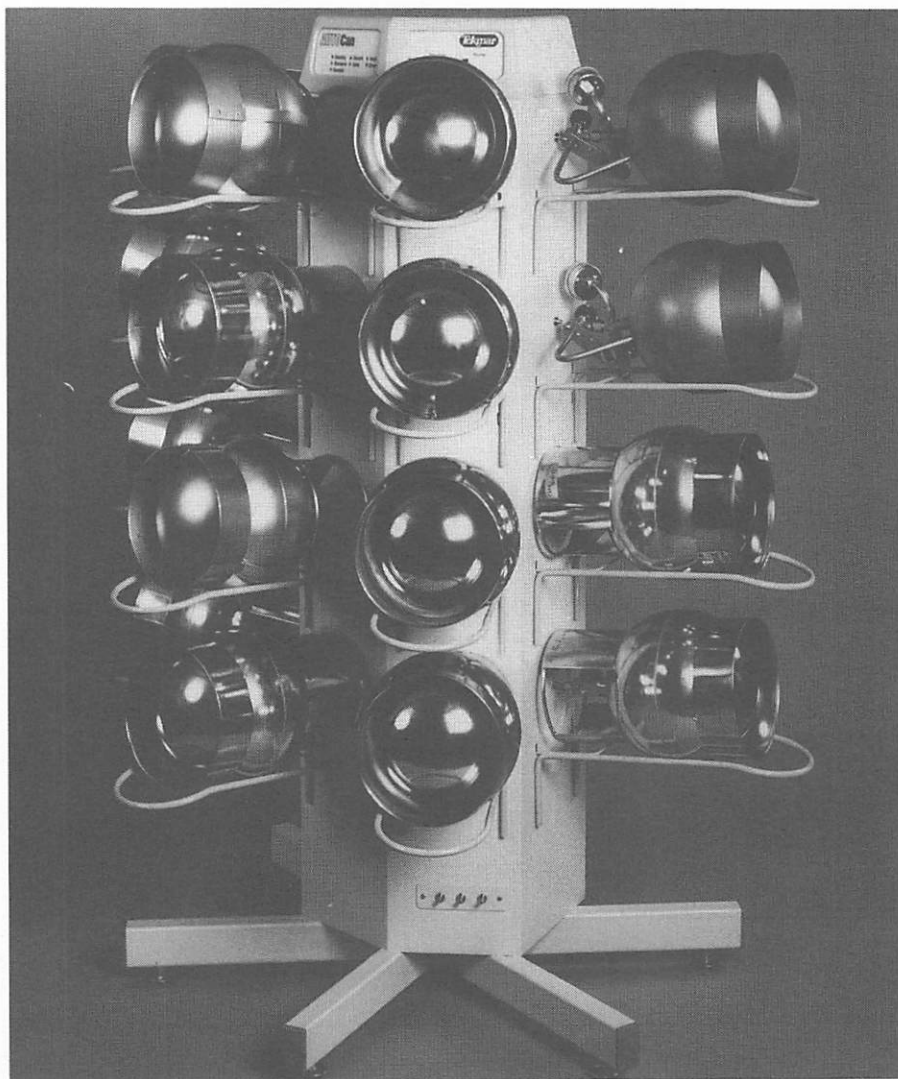
キャニスター採取方式大気中のVOCs分析用
オートサンプラー／濃縮導入装置

Tekmar

AUTOCan™ Canister

キャニスター採取方式は長期間サンプリングによる揮発性微量有機化合物の多成分同時分析に最適な方法です。

Tekmar AUTOCan™ Canisterはキャニスターやバッグに採取した、環境や室内大気を濃縮しGCやGC/MSに導入します。



キャニスター



キャニスター(6.0Lサイズ)

SUMMA® キャニスターは内面を電解研磨し、さらにクロム・ニッケル酸化皮膜を形成させた特殊な不活性化処理を行っています。この内面処理により、VOCs成分の吸着や分解を抑えることができ、大気サンプルの長期間の保存が可能です。

パッシブキャニスター
サンプラー

GL PCS 360

EPAプロトコールに準拠したキャニスター専用のサンプラーで、ラインフィルター、フローコントローラ、圧力計より構成され、電源やポンプは必要ありません。



GL Sciences

ジールサイエンス株式会社

本社 〒163-11 東京都新宿区西新宿6丁目22番1号 新宿スクエアタワー30F

営業部代表 電話 03(5323)6611 FAX 03(5323)6622

大阪支店 ☎ 06(357)5060
東北営業所 ☎ 0245(33)2244
筑波営業所 ☎ 0298(24)3281
千葉営業所 ☎ 043(248)2441

北関東営業所 ☎ 048(667)1611
武蔵営業所 ☎ 0429(34)2121
横浜営業所 ☎ 045(475)1144
静岡営業所 ☎ 054(288)5252

名古屋営業所 ☎ 052(931)1761
京都営業所 ☎ 075(256)0111
広島営業所 ☎ 082(233)1101
九州営業所 ☎ 092(291)5200

FREX

テフロン®医療. 理化学製品製造販売
ヤマト科学(株)特約店

日本フレックス株式会社

〒273 千葉県船橋市本中山5丁目11番1号
TEL 0473 (35) 0610 (代表)
FAX 0473 (33) 2022

ステンレス. プラスチック. 硝子. 設計. 製作
理化学機器・製造・販売

フジ科学株式会社

〒262 千葉県千葉市花見川区検見川町5丁目207番地
TEL 043 (275) 3151 (代)
FAX 043 (275) 8032

ユーザーの専門領域を支えるための商品知識を備えた営業体制

ふくべ薬品株式会社

試薬、医薬品、理化学機器を納入する専門商社

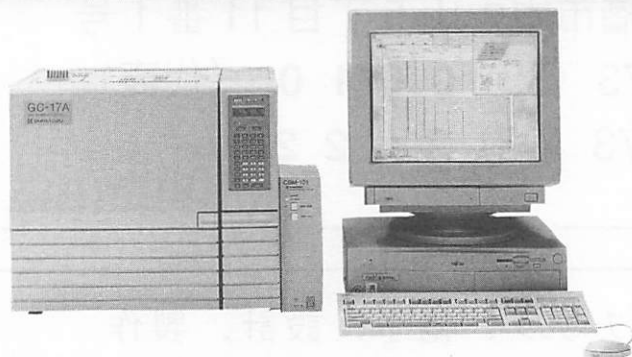
本社	〒257	神奈川県秦野市今泉1006番地	Tel.(0463)82-2263(代) FAX.(0463)83-1459
東京支店	〒114	東京都北区上十条3丁目21番3号	Tel.(03)3906-6651(代) FAX.(03)3900-4846
市原営業所	〒299-01	千葉県市原市青葉台4丁目5番6号	Tel.(0436)61-1951 FAX.(0436)61-1770



SHIMADZU
Solutions for Science
since 1875

島津の技術がこれからの大気を見守ります。

キャピラリガスクロマトグラフGC-17A Ver.3 大気分析システム



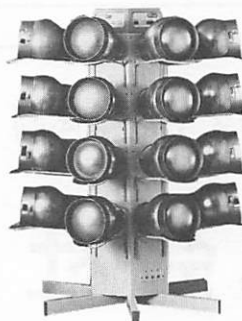
複数検出器の同時搭載により、マトリクス成分の多い大気分析を確実に行えます。

ガスクロマトグラフ質量分析計GCMS-QP5000 Ver.2 大気分析システム

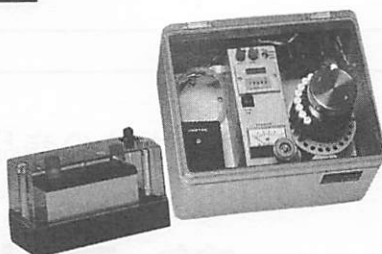


大排気容量の真空ポンプ(15l/sec)の採用で、濃縮された大量のガス成分が一度に分析できます。

大気濃縮導入装置 AUTOCAN



キャニスターやサンプリングバッグに採取した、大気中の揮発性微量有機化合物を、GCまたはGCMSに濃縮導入する装置です。



連続大気サンブラ STS-25

チューブの捕集装置です。最大25本をセットすることが可能です。持ち運びに便利な小形軽量です。



サーマルデソープション ATD-400

チューブに捕集した揮発性微量有機化合物を最大50本までガスクロマトグラフに濃縮導入する装置です。

⊕ 島津製作所

本社 京都市中京区西ノ京桑原町1

分析機器事業部 (075) 823-1195

お問合せはもよりの営業所へ

- 東京 3219-5685 ●大阪 373-6551 ●札幌 205-5500
- 仙台 221-6231 ●郡山 39-3790 ●つくば 51-8511
- 大宮 646-0081 ●横浜 311-4615 ●静岡 272-5600
- 名古屋 565-7531 ●京都 811-8151 ●神戸 331-9665
- 岡山 221-2511 ●高松 34-3031 ●広島 248-4312
- 福岡 271-0332



SHIMADZU
Solutions for Science
since 1875

高感度・省スペース・簡単分析

島津シーケンシャル形高周波プラズマ発光分析装置

ICPS-7500

NEW

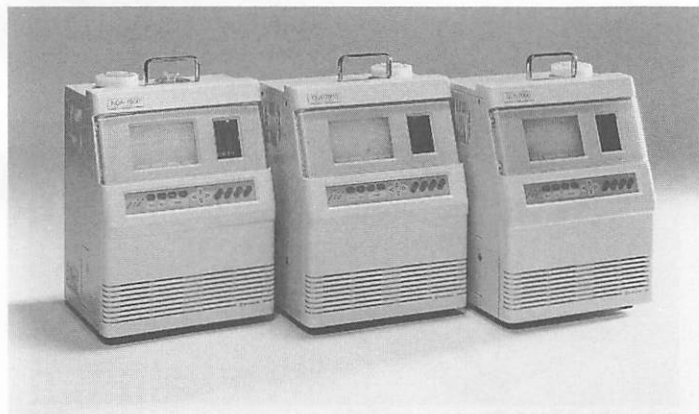


- 高感度です
軸方向観測に加え、試料導入効率の高いサイクロンチャンバシステムを採用。
- 省スペースを実現
高周波電源を本体に内蔵。余分なスペースは不要です。
- 簡単操作
分析の流れに沿ったソフトウェアです。自然な感覚で測定が行えます。操作はマウスによるイージーオペレーション。

「現場ですぐに測定したい。
でも簡易測定では不十分。」という方へ

島津ポータブルガス分析計

7000シリーズ



固定発生源監視用の分析計にも採用されている、レシオ方式の赤外線式検出器（CO、CO₂、SO₂）と、常圧形化学発光式NO_x検出器を内蔵していますので、高感度かつ高精度な測定が、現場で可能になりました。

⊕ 島津製作所

本社 京都市中京区西ノ京桑原町1

分析機器事業部 (075)823-1195
環境計測事業部 (075)823-1259
お問合せはもよりの営業所へ

●東京 3219-5730 ●大阪 373-6561 ●札幌 205-5500
●仙台 221-6231 ●つくば 51-8511 ●大宮 646-0081
●横浜 311-4154 ●静岡 272-5600 ●名古屋 565-7612
●京都 811-8151 ●神戸 331-9665 ●岡山 221-2511
●高松 34-3031 ●広島 248-4312 ●福岡 271-0332

SHIMADZU
Solutions for Science
since 1875

SHIMADZU
Solutions for Science
since 1875

島津製作所試験計測事業部(衡器部門は)...

計量法トレーサビリティ制度に基づく
質量の校正認定事業者です。

JCSS
0065

認定事業者が校正した校正機器等にはこのロゴがついた証明書を発行することができます。
0065は当社の認定番号です。

島津製作所試験計測事業部は、「質量の校正認定事業者」認定にともない、
次の事業・サービスを開始しました。

質量標準に関するコンサルタント

分銅の校正

校正分銅の供給

天びんの校正

分析室での操作性を重視

島津分析天びん

AGシリーズ

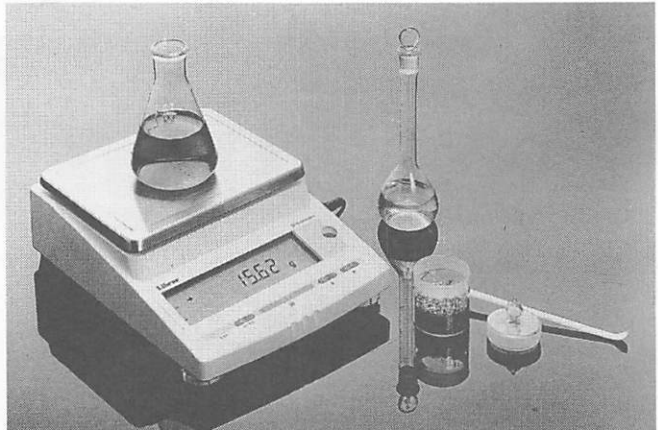


0.1mg AG204DR (デルタレンジ) 215,000円

高精度な電磁力平衡式

島津電子天びん

BLシリーズ



0.1g BL-2200S 79,000円



⊕ 島津製作所

本社 京都市中京区西ノ京桑原町1

試験計測事業部 (075) 823-1200
お問合せはもよりの営業所へ

- 東 京 3219-5705 ●大 阪 373-6661 ●札 幌 205-5500
- 仙 台 221-6231 ●郡 山 39-3790 ●つくば 51-8516
- 大 宮 646-0082 ●横 浜 311-4106 ●静 岡 272-5600
- 名古屋 565-7551 ●京 都 811-8198 ●神 戸 331-9765
- 岡 山 221-2511 ●高 松 34-3031 ●広 島 248-4316
- 福 岡 271-0337

ISEKYU

研究・開発の

あらゆるニーズに
お応えします。

◆ 営業品目 ◆

バイオ関連機材
分析用機器
試薬
臨床検査薬
窯業原料

伊勢久株式会社

本社

〒460 名古屋市中区丸の内3-4-15 TEL052-961-8321(代)

営業開発部

〒464 名古屋市千種区星ヶ丘2-55 TEL052-783-3020(代)

営業所	四日市営業所 TEL0593-31-5284
名東営業所 TEL052-783-3011	津営業所 TEL0592-27-0107
岐阜営業所 TEL0582-73-1625	三島営業所 TEL0559-77-6637
名古屋南営業所 TEL0562-47-1475	東京営業所 TEL03-5259-0301
豊橋営業所 TEL05338-4-3261	千葉営業所 TEL0436-22-2255
掛川営業所 TEL0537-23-8484	鹿島営業所 TEL0299-96-3009
多治見営業所 TEL0572-22-0251	つくば営業所 TEL0298-87-1650

★★ 理化学関係ガラス製品製造販売 ★★

株式会社 **千葉理化ガラス**

代表取締役 千葉 忠 春

理化学ガラス製品製造一級技能士

〒266 千葉県千葉市緑区誉田町2丁目21番1118号

TEL 043-292-2160 (代)

FAX 043-292-2158

(営業品目) / 分析測定用ガラス装置、機器分析関係の各種前処理用ガラス装置
理化学器具、その他一般用ガラス器具

㊦ **明文館器械興業株式会社**

科学機器・光学機器・環境機器
計装機器・計量器・医療機器

— 主要代理店契約品目 —

本 社 千葉市中央区都町2-12-1
〒260 TEL : 043-231-5121
FAX : 043-231-4938
東京営業所 東京都江戸川区西小岩2-11-4
〒133 TEL : 03-5688-6272
FAX : 03-5688-5166

リ オ ン 騒音計、振動計、周波数分析器
東 亜 電 波 水質分析器、記録計
オ リ ン バ ス 顕微鏡、画像処理システム
柴 田 科 学 科学機器、水質・食品検査器
メ ト ラ ー 分析天びん、上皿天びん
セ ン ト ラ ル 科 学 水質分析器
セ イ コ ー 電 子 原子吸光、ICP
ニ コ レ ー FT-IR、FTラマン
チ ノ ー 温湿度測定器、環境管理システム

OA機器・事務用品・文具の総合商社

株式会社 **ミツワ堂**

茂原営業所	茂原市本納2054-1	電 話	0475-34-1061 (代)
		FAX	0475-34-1064
本 社	習志野市大久保2-4-5	電 話	0474-78-3521
		FAX	0474-78-9564
習志野営業所	習志野市大久保2-4-5	電 話	0474-72-6155 (代)
		FAX	0474-78-9564
船橋営業所	船橋市高瀬町62-2	電 話	0474-35-0201 (代)
	船橋総合卸商業団地	FAX	0474-33-7260
佐倉営業所	佐倉市城188-28	電 話	043-486-5521 (代)
		FAX	043-486-7688
大久保店	習志野市大久保1-28-8	電 話	0474-73-1450
		FAX	0474-73-1450
秋津店	習志野市秋津3-6-1(比50)	電 話	0474-51-7713

総合ユニホーム

川崎白衣

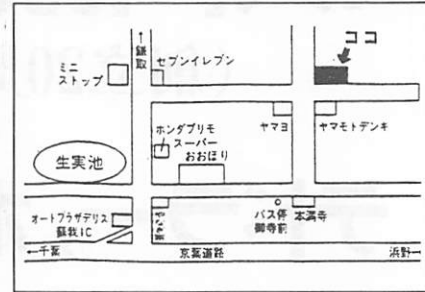
医療・理美容・調理・食品用白衣
事務・作業服・制服・エプロン・椅子カバー
タオル名入・自動車用作業衣
耐油長靴・司会プランナー・その他

♡ お気軽にお問い合わせ下さい♡

☎ (043) **268-2142** (代)

FAX (043) 264-9920

FAX 24 時間受付



千葉市中央区生実町 1660-5

貴方の仕事のパートナー

(有) 山本器械店

〒260 千葉市中央区矢作町 798

TEL 043-227-0406

FAX 043-225-5772

日立理化学機器
千葉県代理店

千葉県代理・特約メーカー

日製産業(株)

{日立・平沼・堀場}

公害測定機器
理化学機器
研究・実験室設備機器

ヤマト科学(株)・柴田科学器械工業(株)・(株)杉山元医理器

◆ 営業品目 ◆

分析機器・理化学機器・環境測定機器・研究室設備

三洋科学株式会社

〒264 千葉市若葉区若松町 2156-15

TEL 043(232)3131 (代表)

FAX 043(233)4409

コスト削減にチャンス!!

(創立20周年記念特別セール)

テドラー, ポリエステル, アルミ
サラン, フッ素, ニオイ袋

大巾にOFF

テフロン, シリコンチューブも

大巾にOFF

お問い合わせ下さい

フリーダイヤルで

0120-03-8141

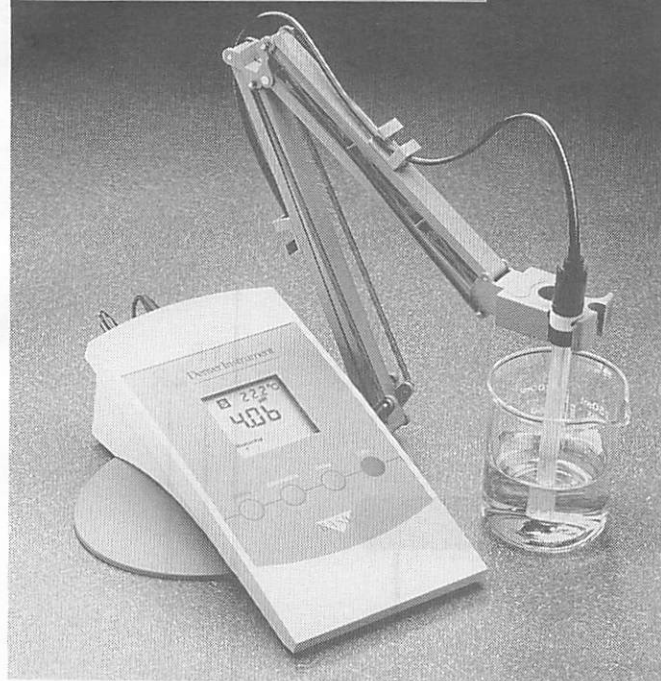
TDC 東京デオドラント株式会社

東京都足立区島根3-3-3-202
TEL03-3884-8141 FAX03-3884-6700

卓上小型のpHメーター

BASIC

ベーシック



楽々校正・簡単操作 小さいけれど強力機能

IWAKI
IWAKI GLASS CO., LTD

品名コード	標準価格
BASIC	110,000円

※1本型トリプル電極、4.01標準液、6.86標準液、電極用アーム、ベース、ACアダプターが標準付属です。

ベーシック

BASICの特長

- 3点自動校正
- 自動温度補償
- 電極劣化の診断機能付き
- 安定状態指示
- 校正履歴表示
- pH(mV)、℃、安定指示、校正値を同時表示
- 大きく見易い表示パネル
- mVの分解能は0.1mVです
- 本体自己診断機能付き
- 耐薬品性ボディー

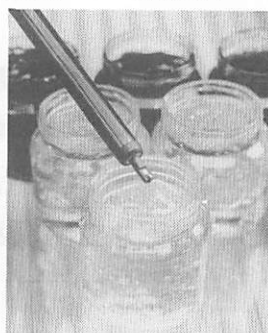
Basicは通常のガラス電極(BNCタイプ)もFET電極もFETアダプター無しで両方使えます。FET電極はオプションです。BasicはBNCタイプのトリプル電極が標準付属です。

FET電極新登場!
(Field Effect Transistor)
(電界効果トランジスター)

FET電極の特長

- 頑丈です
- 簡単に洗浄できます
- 多才です
- 温度センサー内蔵のトリプル複合電極です。内部液補充の必要はありません。
- FETアダプターを接続することで(注)BNC端子方式の全てのpHメーターにご使用できます。BASICにはFETアダプターは不要です。

FET電極	品名コード	標準価格
(注)FETアダプター	DI-620-758	55,000円
	9185.1	14,000円



●BASICはISO-9000認定工場で製造されます。

製造元



Denver Instrument Company



特約店 **TOWA** 株式会社 **東和サイエンス**

〒113 東京都文京区本郷2-20-8 TEL 03(3813)8693
FAX 03(3818)2733

総発売元

岩城硝子株式会社

理化・装置事業部
〒273 千葉県船橋市行田1-50-1 ☎0474(21)2090
大阪 ☎06(362)6291 九州 ☎092(451)5606
名古屋 ☎052(211)3855 札幌 ☎011(221)3477



KANTO Reagents

アオコ毒標準溶液セット

Blue-green algal toxin standard solutions

ミクロシスチンLR, YR, RR

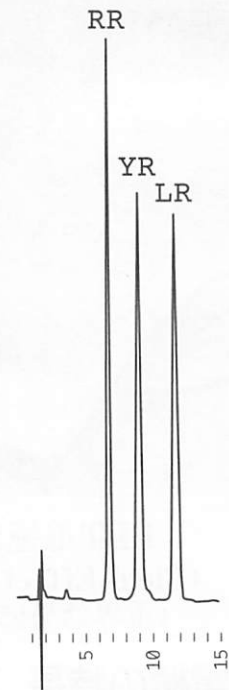
湖沼の富栄養化が進むと藍藻類が増殖し、アオコが大発生します。ミクロキスティス、オシラトリア、アナベナ等の藍藻類は肝臓障害や発がんを促進するとされるミクロシスチンを有し、近年人体や家畜に与える影響が問題化されています。

弊社では、アオコ毒分析のための標準液をはじめ、その他関連試薬を取扱っておりますのでご利用ください。

分析例

▼測定条件

カラム	: Mightysil RP-18 5 μ m 150-4.6
カラム温度	: 室温
溶離液	: メタノール : 50mMリン酸緩衝液 (pH3.00) = 58 : 42
流速	: 1.0 ml/min
検出	: UV240nm
感度	: 0.01 AUSF
試料	: ミクロシスチン LR, RR, YR (各3.33mg/l)
注入量	: 20 μ l
チャートスピード	: 2.5mm/min



アオコ毒標準溶液

20%メタノール溶液

Cat. No.	製品名	規格	包装									
04513-96	アオコ毒標準溶液セット	水質試験用	1セット									
セット内容： <table border="0"> <tr> <td>ミクロシスチンLR標準溶液</td> <td>10μg/ml</td> <td>5ml\times1本</td> </tr> <tr> <td>ミクロシスチンYR標準溶液</td> <td>10μg/ml</td> <td>5ml\times1本</td> </tr> <tr> <td>ミクロシスチンRR標準溶液</td> <td>10μg/ml</td> <td>5ml\times1本</td> </tr> </table>				ミクロシスチンLR標準溶液	10 μ g/ml	5ml \times 1本	ミクロシスチンYR標準溶液	10 μ g/ml	5ml \times 1本	ミクロシスチンRR標準溶液	10 μ g/ml	5ml \times 1本
ミクロシスチンLR標準溶液	10 μ g/ml	5ml \times 1本										
ミクロシスチンYR標準溶液	10 μ g/ml	5ml \times 1本										
ミクロシスチンRR標準溶液	10 μ g/ml	5ml \times 1本										

その他、関連試薬・分析用カラムも取扱っております。
 詳細につきましては下記までお問い合わせ下さい。

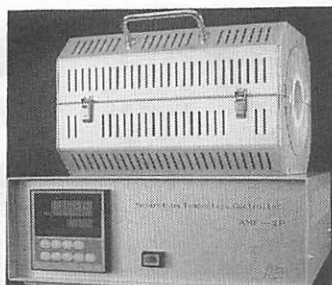


関東化学株式会社 試薬事業本部

〒103 東京都中央区日本橋本町3-11-5 03(3663)7631
 〒541 大阪市中央区瓦町2-5-1 06(222)2796
 〒812 福岡市博多区山王1-1-32 博多堀池ビル 092(414)9361

セラミック電気管状炉（安全カバー付タイプ）

今までの管状炉のイメージを一新し成型セラミックを使用した管状炉を開発致しました。軽量なため女性でも片付ける事ができ、机の上のスペースを広く使用出来ます。又安全カバーを付ける事により火傷の防止にもなります。



温度範囲：常温～1200℃迄 30分 均熱帯：62mm(±2.5℃)
ARF30KC+N型 30φ 300L 500W 3kg 244,000円
ARF50KC+N型 50φ 300L 700W 3kg 248,000円
ARF80KC+N型 80φ 300L 1200W 4kg 388,000円

株式会社 アサヒ理化製作所

〒262 千葉県千葉市花見川区天戸町973-3
TEL (043) 257-9123 FAX (043) 257-9229

浄化槽管理測定を省力化、低コスト化

BO-1000 BOD自動測定装置

- 測定方式：JIS法隔膜電極法採用
- 電極のふ卵瓶挿入方式
- プロペラ攪拌棒付リードレス電極可能
- 簡単操作 ◎誤動作防止設計

BD-1000 BOD自動希釈装置

- SS分等の均一化を考慮した試料攪拌
- 希釈段数：2, (3), 4段
- 希釈倍率：2~25倍（整数倍）
- 簡単操作 ◎誤動作防止設計

地球環境にやさしい島津製作所の代理店

東亜電波工業代理店

田中理化株式会社 千葉営業所

〒260 千葉市中央区神明町200番地 電話 (043) 241-8348
FAX (043) 241-8330

諸設備完備・迅速・丁寧

東金印刷株式会社

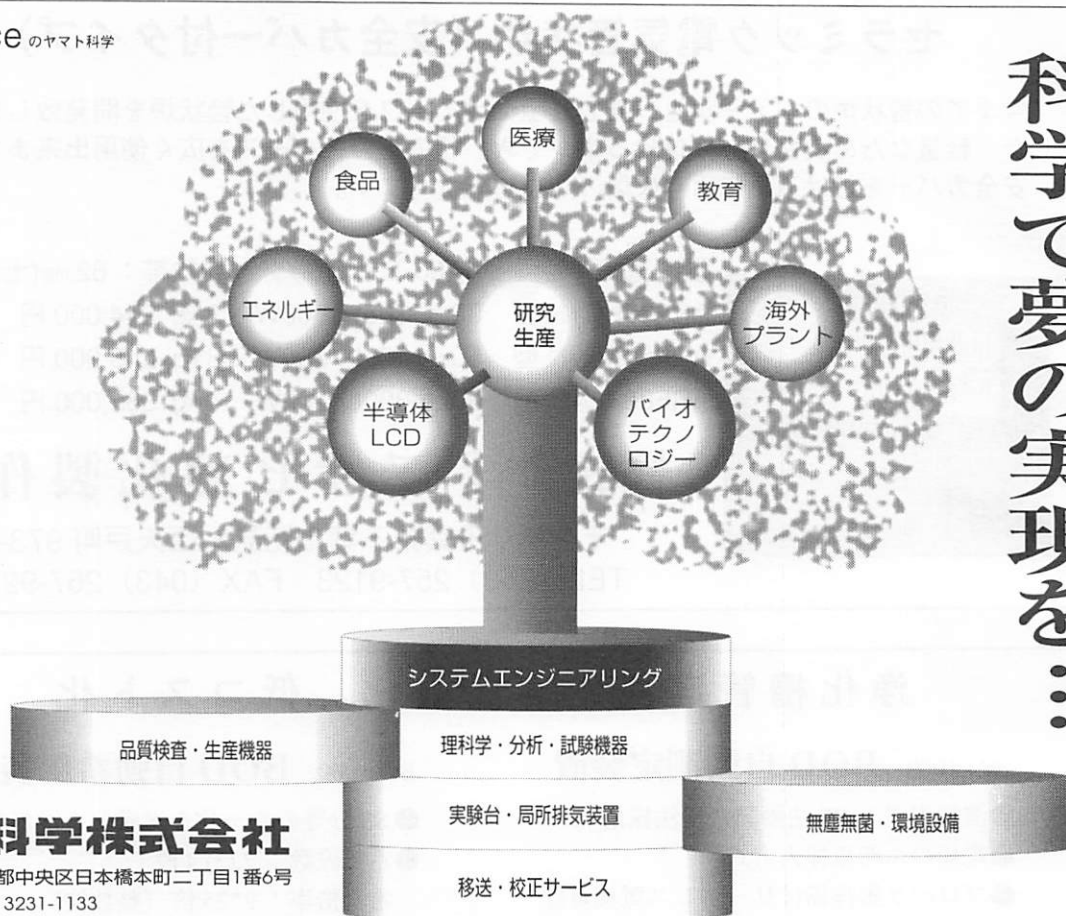
豊海県道フミキリ脇

TEL 0475-52-2859
FAX 0475-52-5514

Amenience のヤマト科学



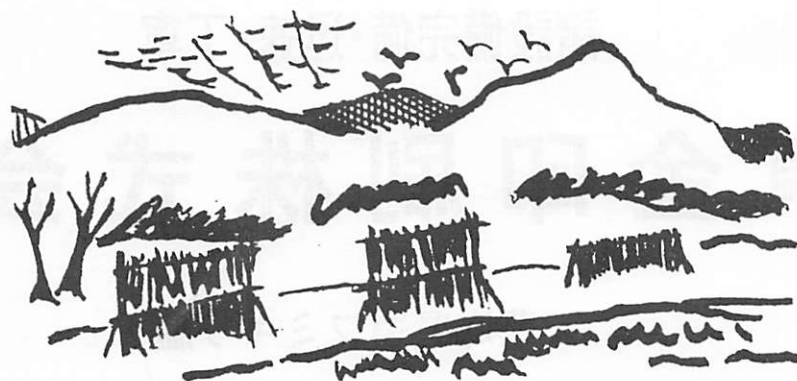
人と環境の調和を目指す
科学技術をサポート



科学で夢の実現を...

ヤマト科学株式会社

本社：〒103東京都中央区日本橋本町二丁目1番6号
TEL (03) 3231-1133



— 編集後記 —

当協会の創立20周年の節目を迎えるに当たり、記念式典を主な内容として、創立10周年以降の今日までの事業活動実績を編纂し、記念誌を発刊することとなりました。

“人には人の履歴あり” “会には会の歴史あり” 今日までの協会活動実績を振り返ると各委員長、会員皆様の千方百計が思い出されます。

記念誌編集によって積み重ねの大切さ、継続の力の大きさを改めて知らされました。

ご寄稿下さいました皆様と広告の協賛に快くご賛同頂きました各会社の方々に深く感謝申し上げます。

限りない明日へ向けてより飛翔する千環協を願って編集後記とさせていただきます。

(共に手をたづさえて頂いた会員の皆様ご苦勞様でした。)

記念誌特集号編集員

清水 隆 行	イカリ消毒(株)
荒 木 匡	(財)日本分析センター
富 田 陽 美	房総ファイン(株)
水 野 寛 之	京葉ガス(株)
濱 田 隆 治	(株)CTIサイエンスシステム
菅 谷 光 夫	(株)ダイワ

創立20周年記念特集

平成8年12月25日

発行 千葉県環境計量協会

〒260 千葉県中央区稲潟町71番地

(株)環境管理センター内

TEL (043) 261-1100

印刷 東金印刷株式会社

〒283 東金市東金405

TEL (0475) 52-2859